

北塩原村公共施設等総合管理計画

平成 29 年 3 月策定
(令和 4 年 3 月一部改訂)
北 塩 原 村

北塩原村公共施設等総合管理計画

第一章	北塩原村の概要	3
I.	村の地理	3
II.	村の沿革	2
III.	人口動向	3
IV.	財政状況	6
第二章	公共施設等総合管理計画の目的等	8
I.	公共施設等総合管理計画の目的	8
II.	計画期間	9
III.	推進体制	9
第三章	施設の状況と将来見通し	10
I.	建築系公共施設の現況	10
①	対象施設と分類	10
②	施設数量	13
③	パレート分析	14
④	施設分類・建築年度分布表	15
⑤	施設の老朽化率	16
⑥	将来の更新費用試算	17
II.	生活インフラ施設の現況	18
①	道路	18
②	橋梁	19
③	上水道	20
④	下水道	22
第四章	公共施設等の管理に関する基本方針	23
I.	公共施設における現状と課題	23
II.	全体目標	23
III.	公共施設等の維持管理方針	24
IV.	公共施設等の維持管理、更新等に係る経費の見込み	25
第五章	施設分類ごとの基本方針	27
I.	建築系公共施設の管理に関する基本的な方針	28
①	学校教育系施設	28
②	文化系施設	31
③	社会教育系施設	36
④	スポーツ・レクリエーション施設	38

⑤	子育て支援施設.....	41
⑥	保健・福祉施設.....	44
⑦	医療施設.....	47
⑧	行政系施設.....	49
⑨	公営住宅.....	54
⑩	その他建築系公共施設.....	57
II.	土木系公共施設の管理に関する基本的な方針.....	64
①	道路.....	64
②	橋梁.....	65
③	上水道.....	66
④	下水道.....	67
第六章	計画の推進について.....	70
	【資料編】	71

第一章 北塩原村の概要

I. 村の地理

本村は、福島県の北西部に位置し、総面積は 233.94 km²で、東西 22.5km、南北 19.3km に渡っています。地理・地形から標高 200~300m の北山地区、400~500m の大塩地区、800~1000m の桧原・裏磐梯地区の三地域に大きく分かれています。主な産業は農業と観光業となっています。

桧原・裏磐梯地区は、明治 21（1888）年の磐梯山大噴火により、吾妻川、大川入川、小野川、中津川などが堰き止められ、周囲 47.0km、面積 10.47 km²の桧原湖、周囲 12.0km、面積 1.7 km²の小野川湖、周囲 24.0km、面積 3.7 km²の秋元湖のほか、曾原湖、五色沼など 300 を超える湖沼群が生まれ磐梯山をはじめとする周囲の山々とあわせて美しい自然景観を創り出しています。当地域は、昭和 25 年に国立公園に指定され、福島県を代表する観光地です。

北塩原村位置図



II. 村の沿革

明治 22 年に町村制が施行され、北山村・大塩村・桧原村の 3 ケ村は役場事務組合として業務にあたってきました。

昭和 29 年 3 月 31 日、合併促進法により 3 村を廃止し、3 村の文字を 1 文字ずつ取った「北塩原村」が誕生、現在に至っています。

合併当時の旧 3 村は、道路事情も悪く、地域産業の停滞のみならず交流も滞りがちでしたが、「裏磐梯高原」という貴重な財産のもとに計画的な社会資本の整備がなされ、着実に進展を遂げました。さらには国道 459 号の整備等により地域住民の交流もスムーズに行われるようになりました。

これらの基盤整備や喜多方、猪苗代方面の 2 つに分かれる生活圈などの現状を踏まえ、平成 15 年 12 月、近隣市町村との合併はせずに、住民の生活と暮らしを最優先に考え自立の道を選択しました。以降、立地を最大限に生かし、農業と観光を基幹産業として、地域資源を活かした特色ある村づくりに取り組んでいます。

Ⅲ. 人口動向

① 北塩原村における人口動向

「北塩原村人口ビジョン・北塩原村まち・ひと・しごと創生総合戦略」より抜粋

本村における人口は、毎年減少を続けており、今後さらなる少子化が進むことが予想されます。また、高齢化率についても2010年時点で約28%と、全国平均である23%を大幅に上回っており、高齢化も進んでいます

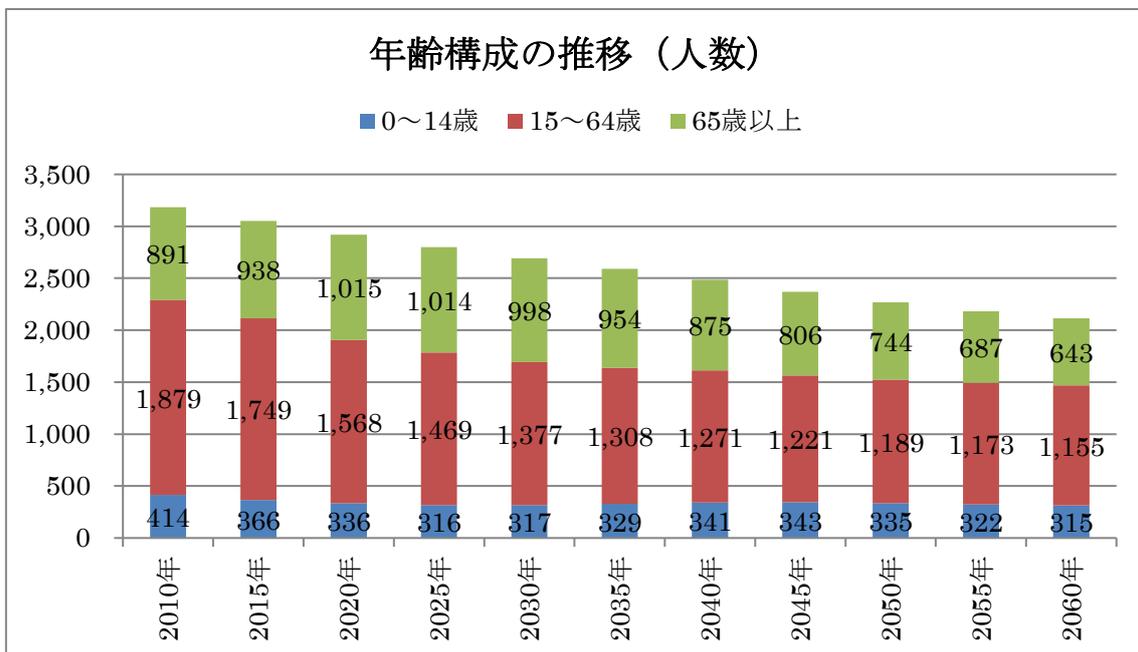


図 1 北塩原村における人口推移 (人数)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	414	366	336	316	317	329	341	343	335	322	315
15～64歳	1,879	1,749	1,568	1,469	1,377	1,308	1,271	1,221	1,189	1,173	1,155
65歳以上	891	938	1,015	1,014	998	954	875	806	744	687	643
総人口(人)	3,185	3,053	2,919	2,800	2,692	2,591	2,487	2,370	2,268	2,183	2,114

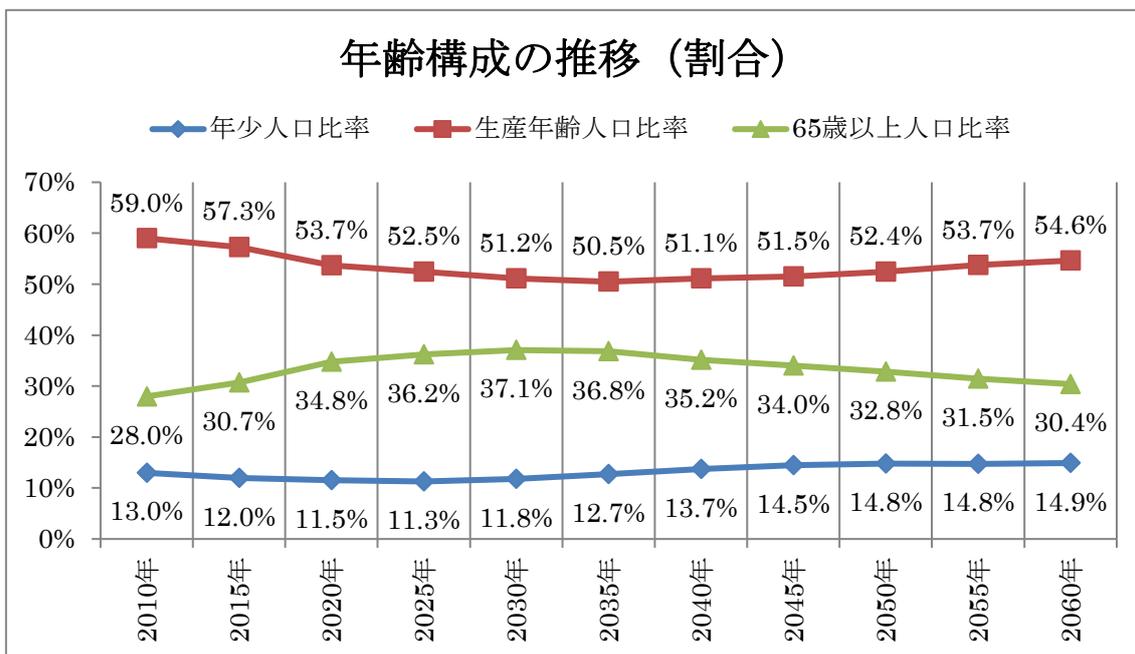


図 2 北塩原村における人口推移（割合）

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
年少人口比率	13.0%	12.0%	11.5%	11.3%	11.8%	12.7%	13.7%	14.5%	14.8%	14.8%	14.9%
生産年齢人口比率	59.0%	57.3%	53.7%	52.5%	51.2%	50.5%	51.1%	51.5%	52.4%	53.7%	54.6%
65歳以上人口比率	28.0%	30.7%	34.8%	36.2%	37.1%	36.8%	35.2%	34.0%	32.8%	31.5%	30.4%

② 福島県における人口動向

福島県全体での今後の人口動向について、2040年までに40万人程度の減少が予測されています。人口減少率は7%にまで登る予測です。当村においては、県の予測と全く同じとは言えませんが、今後大幅な人口減少が予想されます。

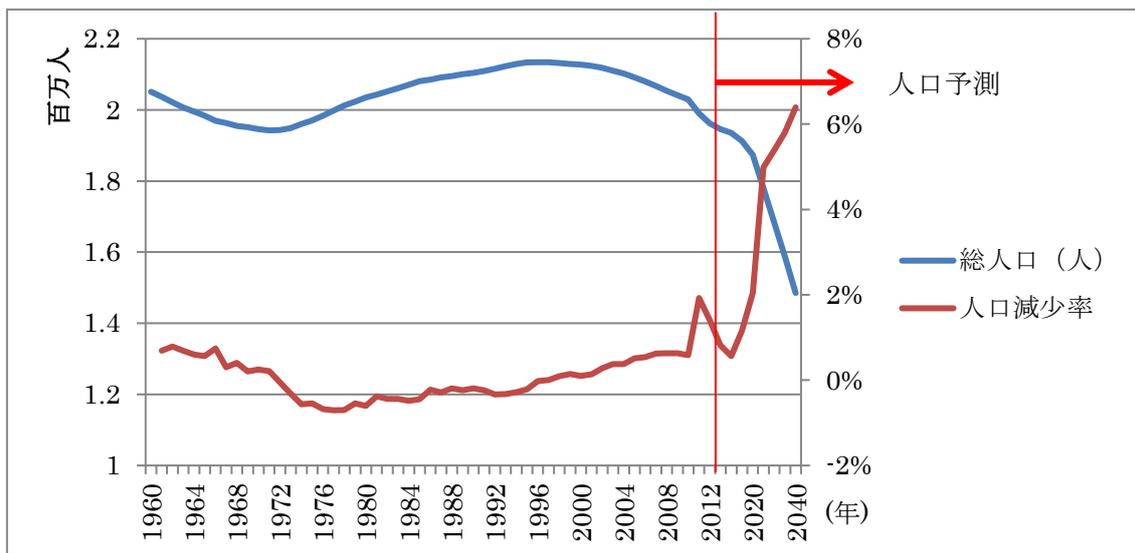


図 3 福島県における人口推移・予測

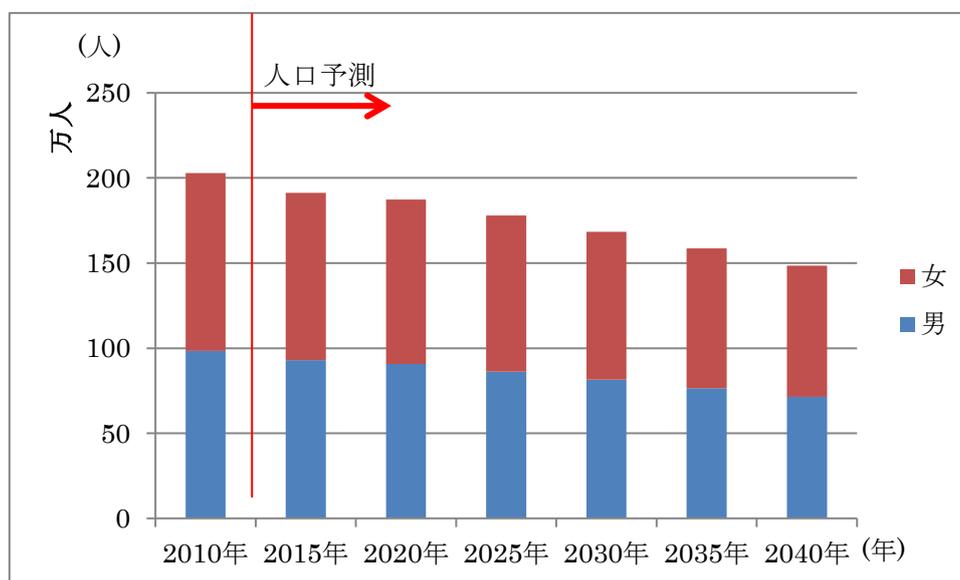


図 4 福島県における男女別人口推移・予測

IV. 財政状況

① 歳入

歳入は30億円超で推移しています。自主財源である地方税（村税）に対し、依存財源である地方交付税の割合が大きいことがわかります。

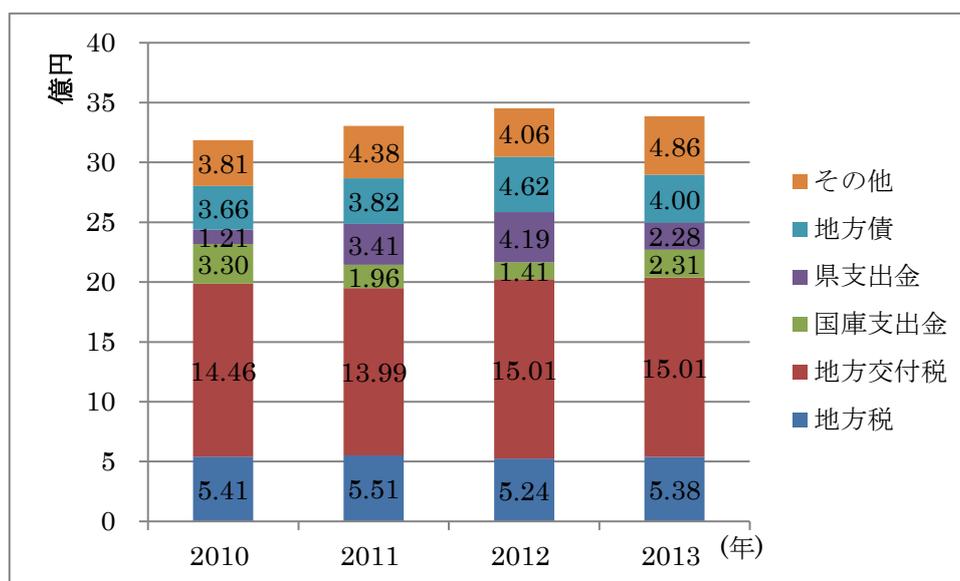


図 5 一般会計における歳入の推移

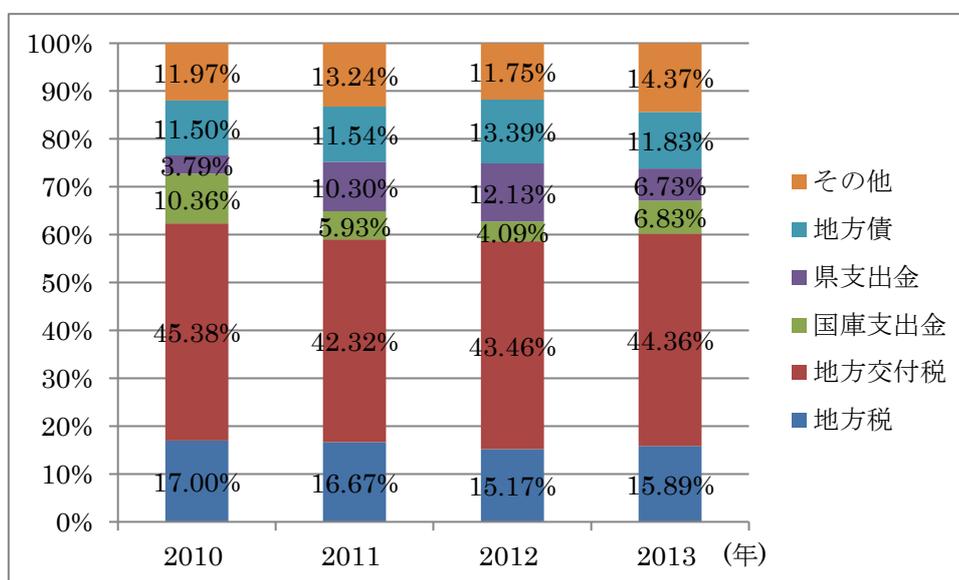


図 6 一般会計における歳入の推移（割合）

② 歳出

歳出はほぼ 30 億円で推移しています。震災の影響が大きいと思われますが、投資的経費が増加傾向にあります。人件費を含む義務的経費が減少傾向にあるのも特徴的です。物件費・維持補修費を含むその他経費に関しては、ほぼ横ばいの傾向にあります。

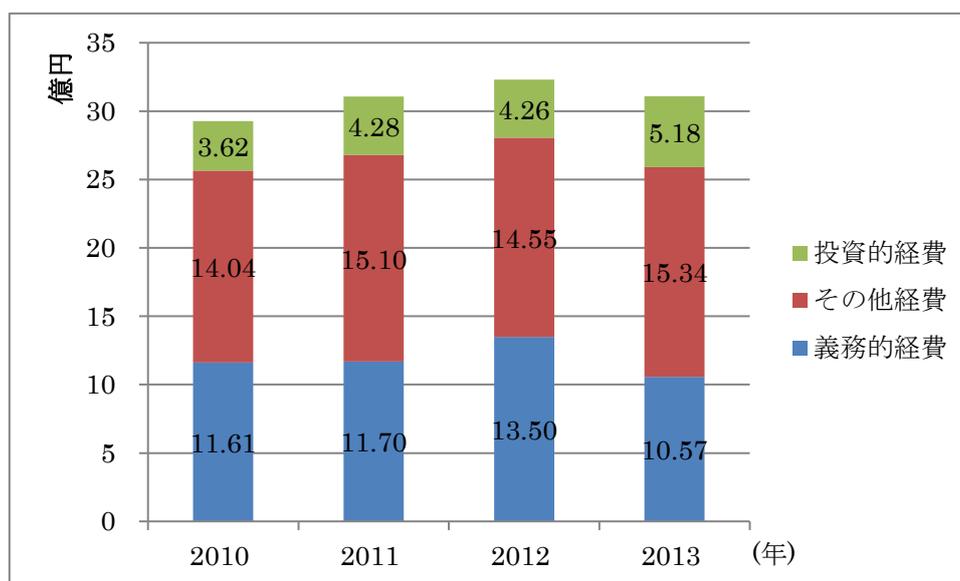


図 7 一般会計における歳出の推移

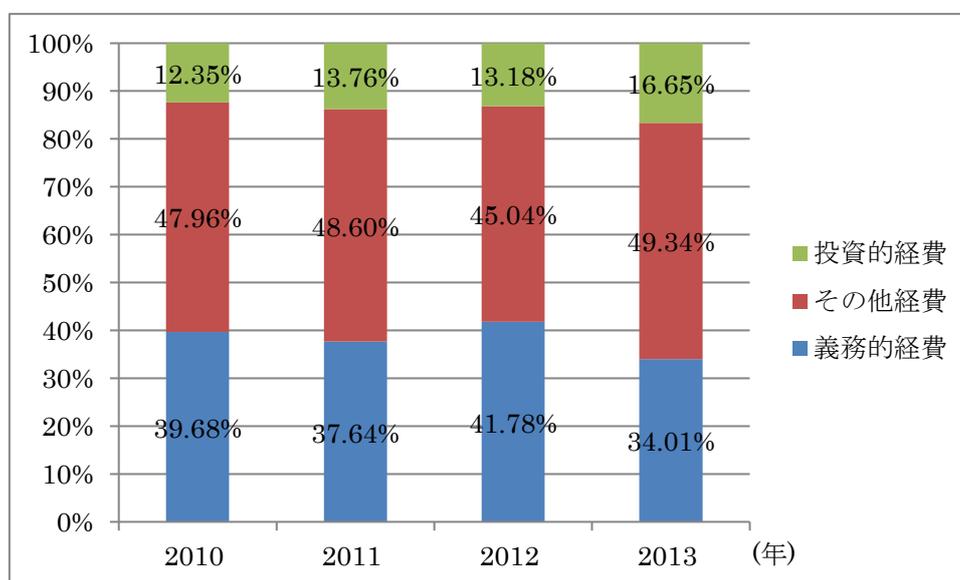


図 8 一般会計における歳出の推移 (割合)

第二章 公共施設等総合管理計画の目的等

1. 公共施設等総合管理計画の目的

我が国においては、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっております。地方公共団体においては、厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっております。また、このように公共施設等を総合的かつ計画的に管理することは、地域社会の実情にあった将来のまちづくりを進める上で不可欠であるとともに、昨今推進されている国土強靱化（ナショナル・レジリエンス）にも資するものである。

国においては、「経済財政運営と改革の基本方針～脱デフレ・経済再生～」(平成25年6月14日閣議決定)において、「インフラの老朽化が急速に進展する中、『新しく造ること』から『賢く使うこと』への重点化が課題である」とされ、「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」(平成25年6月14日閣議決定)においても、「国、自治体レベルの全分野にわたるインフラ長寿命化計画(行動計画)を策定する」とされたところである。

平成25年11月には、この「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」に基づき、「インフラ長寿命化基本計画」が策定され、地方公共団体においてもインフラ長寿命化計画(行動計画)・個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)を策定すること及びこれらの計画に基づき点検等を実施した上で適切な措置を講じることが期待される。

このようなことから、本村においても、今後の人口減少や厳しい財政状況を踏まえ、将来的な財政負担の軽減や平準化を図り、公共施設を維持管理するため、インフラ施設を含めた全ての公共施設等を対象とした「北塩原村公共施設等総合管理計画」を平成29年3月に策定し、長期的な視点に立ち、総合的に管理することとした。

その後、国において、公共施設等総合管理計画については、不断の見直しを実施し順次充実させていくことが適当であるとの考えのもと、平成30年2月に総合管理計画の策定にあたっての指針を改訂するなど、令和3年度中に見直しするよう各地方公共団体に要請しているところであり、これを受けて、本村

においても、このたび計画の一部を改訂し、公共施設等の適正管理の更なる推進に取り組むこととする。

II. 計画期間

本計画は、公共施設の寿命が数十年に及び、中長期的な視点が不可欠であることから、平成 28 年度（2016 年度）から平成 57 年度（2045 年度）までの 30 年間の将来推計に基づき策定しました。計画期間についても同じく 30 年間とします。

III. 推進体制

本計画の推進を図るために、全庁的な取組体制として、庁議を実施し、計画を進める上で課題となった案件については、必要に応じて協議を行います。

また、事務局（総務企画課）において情報を管理し、集約することで、各個別計画の進捗管理を行い、全庁的に情報共有を図ります。

第三章 施設の状況と将来見通し

I. 建築系公共施設の現況

① 対象施設と分類

本村の所有する以下の施設を対象とします。

1	北塩原村役場コミュニティセンター	52	裏磐梯診療所
2	北塩原村構造改善センター	53	裏磐梯幼稚園
3	北塩原村民体育館	54	裏磐梯小学校
4	さくら幼稚園	55	裏磐梯小学校屋内運動場
5	さくら小学校	56	裏磐梯小学校プール
6	さくら小学校屋内運動場	57	裏磐梯学校給食共同調理場
7	さくら小学校プール	58	裏磐梯中学校
8	北塩原村学校給食調理場	59	裏磐梯中学校(屋内運動場)
9	第一中学校	60	除雪ステーション(裏磐梯)
10	第一中学校屋内運動場	61	桧原湖第2駐車場トイレ
11	第一中学校プール	62	曾原山別荘地管理棟
12	除雪ステーション	63	裏磐梯サイトステーション
13	職員公舎(1・2・3号)	64	曾原・狐鷹森生活改善センター
14	職員公舎(4・5号)	65	裏磐梯浄化センター
15	北塩原村生涯学習センター	66	長峯交流センター
16	北塩原村活性化センター	67	道の駅裏磐梯
17	北塩原村グリーンセンター	68	農産物直売施設
18	旧大塩幼稚園	69	細野駐車場公衆トイレ
19	旧大塩小学校プール	70	雄国沼休憩舎
20	旧大塩小学校屋内運動場	71	北山消防屯所
21	大塩虚空蔵公園駐車場公衆トイレ	72	下吉消防ポンプ庫
22	桜峠管理棟	73	谷地消防ポンプ庫
23	北塩原村デイサービスセンター	74	関屋樟消防ポンプ庫
24	福祉施設車庫	75	樟消防ポンプ庫
25	北塩原村保健センター	76	松陽台消防屯所
26	北塩原村温泉健康増進施設「ラピスパ裏磐梯」	77	大塩消防屯所
27	体験交流センター(いこいの森)	78	新田消防ポンプ庫
28	生活文化交流館(いこいの森)	79	大久保消防ポンプ庫
29	環境社会学習館(いこいの森)	80	上川前消防ポンプ庫
30	伝統歴史体験館(いこいの森)	81	下川前消防ポンプ庫
31	炭焼き小屋(いこいの森)	82	桧原消防屯所
32	サニタリー(いこいの森)	83	金山消防ポンプ庫
33	管理受付棟(いこいの森)	84	早稲沢消防ポンプ庫
34	廃食油リサイクル施設(いこいの森)	85	曾原消防ポンプ庫
35	桧原出張所	86	狐鷹森消防ポンプ庫
36	桧原診療所	87	剣ヶ峯消防屯所
37	明治大学セミナーハウス	88	蛇平消防ポンプ庫
38	桧原処理場	89	秋元消防ポンプ庫
39	除雪ステーション(桧原)	90	小野川消防ポンプ庫
40	桧原歴史館	91	裏磐梯団地
41	金山処理場	92	松陽台団地
42	生きがい学習施設	93	北山団地
43	北塩原村生活改善センター	94	北塩原村民運動場
44	大地の工房(農産物加工施設)	95	桧原多目的集会所
45	早稲沢処理場	96	物置(スーパーハウス)
46	早稲沢浜公衆トイレ	97	墓地公園
47	デコ平遊歩道トイレ	98	早稲沢テニスコート
48	スポーツパーク桧原湖器具庫・トイレ	99	北山浄化センター
49	裏磐梯合同庁舎	100	大塩浄化センター
50	北塩原村自然環境活用センター	101	小野川処理場
51	裏磐梯物産館		

対象施設数 101 施設

対象延床面積 53,839 m²

また、対象とした施設について、以下の区分に分類します。

(一般財団法人 地域総合整備財団の「公共施設等更新費用試算ソフト」に準拠)

大分類	中分類	施設
学校教育系施設	学校	さくら小学校
		さくら小学校屋内運動場
		さくら小学校プール
		第一中学校
		第一中学校屋内運動場
		第一中学校プール
		裏磐梯小学校
		裏磐梯小学校屋内運動場
		裏磐梯小学校プール
		裏磐梯中学校
		裏磐梯中学校(屋内運動場)
		その他教育施設
	市民文化系施設	集会施設
旧大塩小学校プール		
旧大塩小学校屋内運動場		
北塩原生涯学習センター		
北塩原村活性化センター		
北塩原村グリーンセンター		
曾原・狐鷹森生活改善センター		
長峯交流センター		
北塩原村構造改善センター		
北塩原村生活改善センター		
北塩原村自然環境活用センター		
松原多目的集会所		
生きがい学習施設		
文化施設		
社会教育系施設	図書館	
	博物館等	松原歴史館
スポーツ・レクリエーション施設	スポーツ施設	早稲沢テニスコート
		北塩原村民運動場
		北塩原村民体育館
	レクリエーション施設	スポーツパーク松原湖器具庫・トイレ 裏磐梯サイトステーション
保養施設		
産業系施設	産業系施設	
子育て支援施設	幼保・こども園	さくら幼稚園 裏磐梯幼稚園
	幼児・児童施設	
保健・福祉施設	高齢福祉施設	北塩原村デイサービスセンター
	障害福祉施設	
	児童福祉施設	
	保健施設	北塩原村保健センター
		福祉施設車庫 北塩原村温泉健康増進施設「ラビスパ裏磐梯」
		体験交流センター(いこいの森)
		生活文化交流館(いこいの森)
		環境社会学習館(いこいの森)
		伝統歴史体験館(いこいの森)
		炭焼き小屋(いこいの森)
		サニタリー(いこいの森)
管理受付棟(いこいの森)		
廃食油リサイクル施設(いこいの森)		
医療施設	医療施設	松原診療所
		裏磐梯診療所

大分類	中分類	施設	
行政系施設	庁舎等	北塩原村役場コミュニティセンター	
		裏磐梯観光会館（裏磐梯合同庁舎）	
		桧原出張所	
	消防施設		北山消防屯所
			下吉消防ポンプ庫
			谷地消防ポンプ庫
			関屋樟消防ポンプ庫
			樟消防ポンプ庫
			松陽台消防屯所
			大塩消防屯所
			新田消防ポンプ庫
			大久保消防ポンプ庫
			上川前消防ポンプ庫
			下川前消防ポンプ庫
			桧原消防屯所
			金山消防ポンプ庫
			早稲沢消防ポンプ庫
			菅原消防ポンプ庫
			狐鷹森消防ポンプ庫
			剣ヶ峯消防屯所
			蛇平消防ポンプ庫
秋元消防ポンプ庫			
小野川消防ポンプ庫			
その他行政施設		除雪ステーション	
		除雪ステーション（桧原）	
		除雪ステーション（裏磐梯）	
公営住宅	公営住宅	裏磐梯団地	
		松陽台団地	
		北山団地	
供給処理施設	供給処理施設		
その他	その他	職員公舎（1・2・3号）	
		職員公舎（4・5号）	
		大地の工房（農産物加工施設）	
		早稲沢浜公衆トイレ	
		テコ平遊歩道トイレ	
		裏磐梯物産館	
		細野駐車場公衆トイレ	
		菅原山別荘地管理棟	
		桧原処理場	
		金山処理場	
		早稲沢処理場	
		小野川処理場	
		裏磐梯浄化センター	
		北山浄化センター	
		大塩浄化センター	
		桜峠管理棟	
		道の駅裏磐梯	
		農産物直売施設	
		大塩虚空蔵公園駐車場公衆トイレ	
		桧原湖第2駐車場トイレ	
		雄国沼休憩舎	
		物置（スーパーハウス）	
		墓地公園	

② 施設数量

本村における施設のうち、その他に分類された施設を除くと、延床面積は学校教育系施設が多数を占めています。人口と比較したとき、文化系施設が多いのが特徴的です。

分類	件数	延床面積 (㎡)
学校教育系施設	13	13,652
文化系施設	13	8,214
社会教育系施設	1	284
スポーツ・レクリエーション施設	6	3,960
子育て支援施設	2	885
保健・福祉施設	12	7,897
医療施設	2	408
行政系施設	26	5,734
公営住宅	3	4,404
その他建築系公共施設	23	8,401

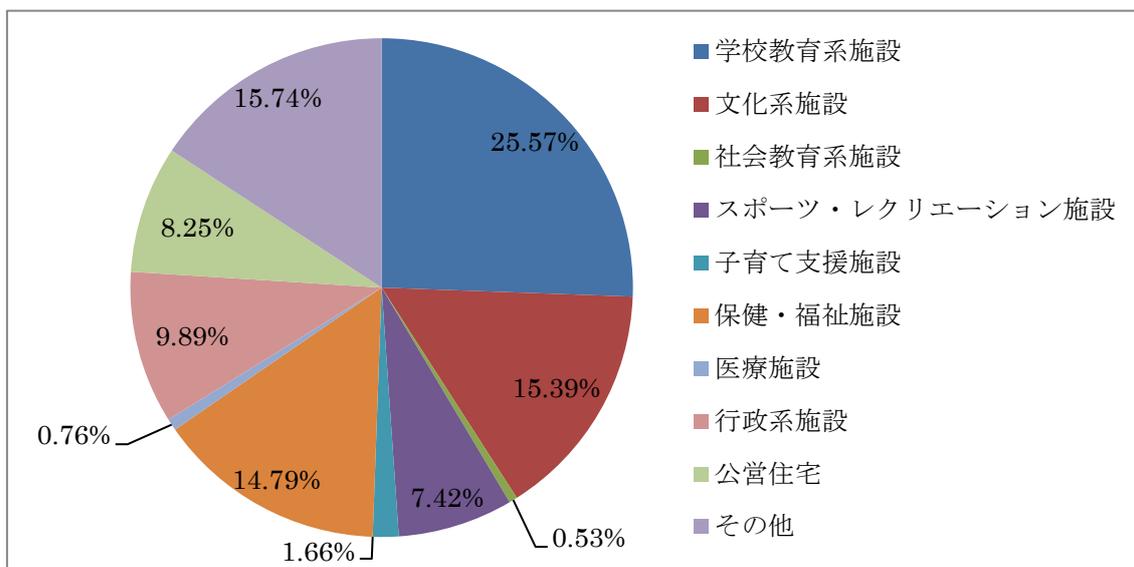


図 9 施設の割合

③ パレート分析

パレートの法則（集合の 2 割が全体の 8 割に影響を及ぼす）を活用し、面積の大きい 2 割集団が全体面積の 8 割に相当するかを検証します。北塩原村においては、全体面積の約 7 割となっており、パレートの法則は成立に近い傾向にあります。そのため、施設の統廃合や運営経費の削減の効果が大きいに期待できます。

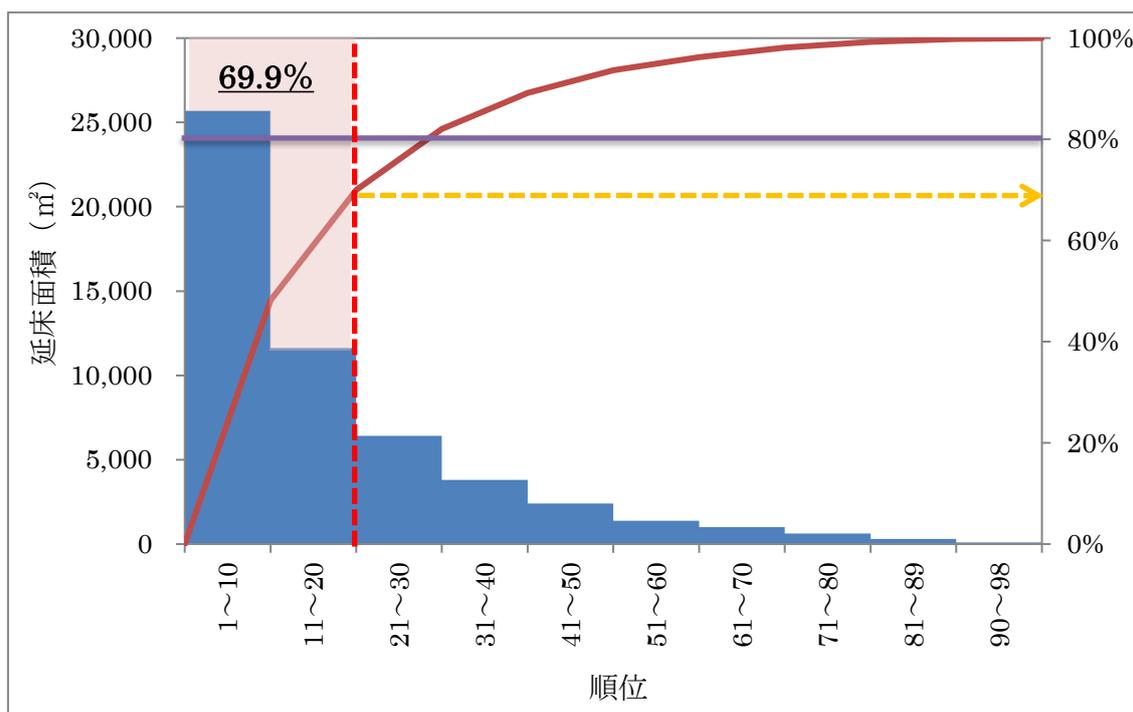


図 10 パレート分析図

④ 施設分類・建築年度分布表

本村では 1990 年代半ばに整備した公共施設が中心となっております。そのため、建物の老朽化や耐震性の面においては、経過年数が 20 年未満の建物が多く、問題が顕在化するには時間的余裕があると考えられます。新耐震基準以前の公共施設は 5 件あり、建築年度不明が 7 件あります。これらを使用し続ける場合は早急な対策が求められることになります。

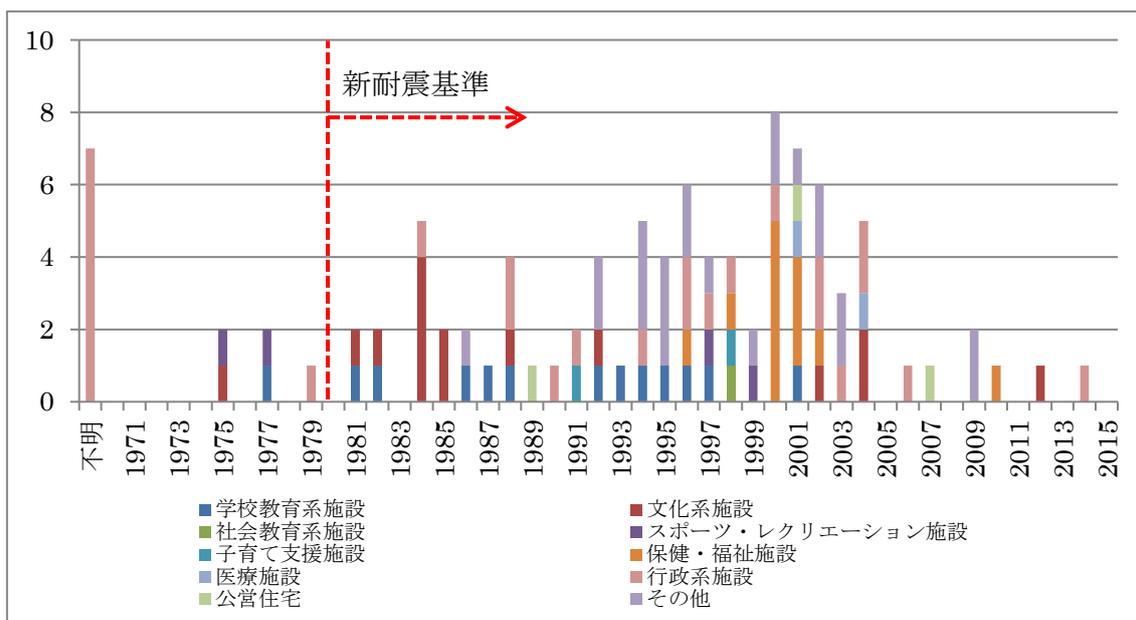


図 11 施設分類・取得年別建築数

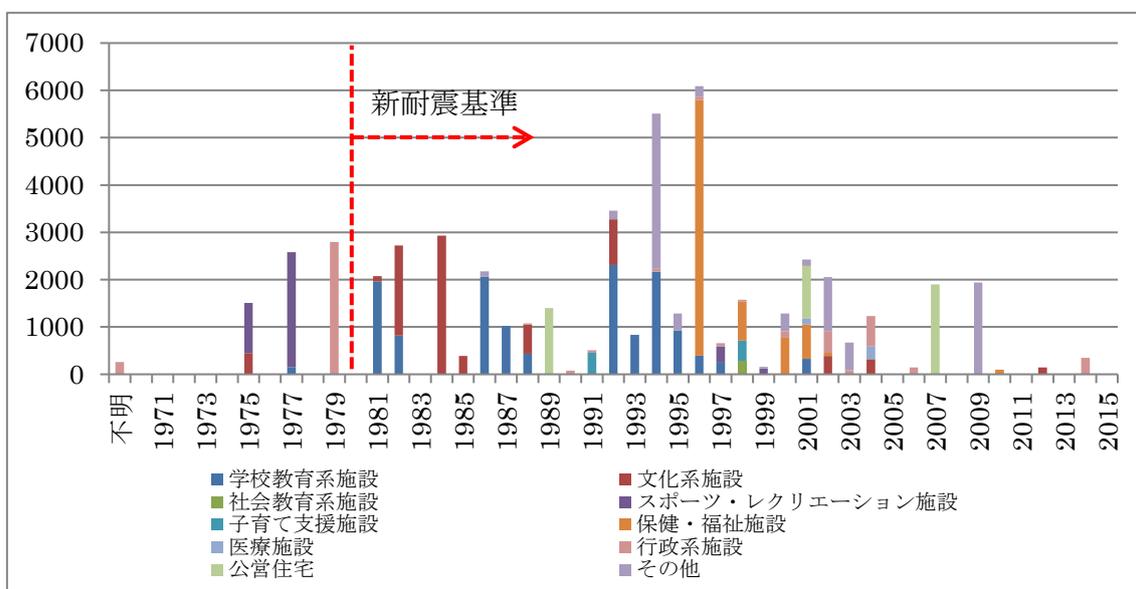


図 12 施設分類・取得年別建築面積

⑤ 施設の老朽化率

施設の建築方式・耐用年数をもとに、老朽化率を算出いたしました。老朽化率は《経過年数 ÷ 耐用年数》にて算出しています。本村施設は比較的新しい建築物が多いものの、老朽化は進んでおります。70%を超える建物は比較的少ないですが、100%（耐用年数）を超える建築物もあるため、早急な検討が必要になります。

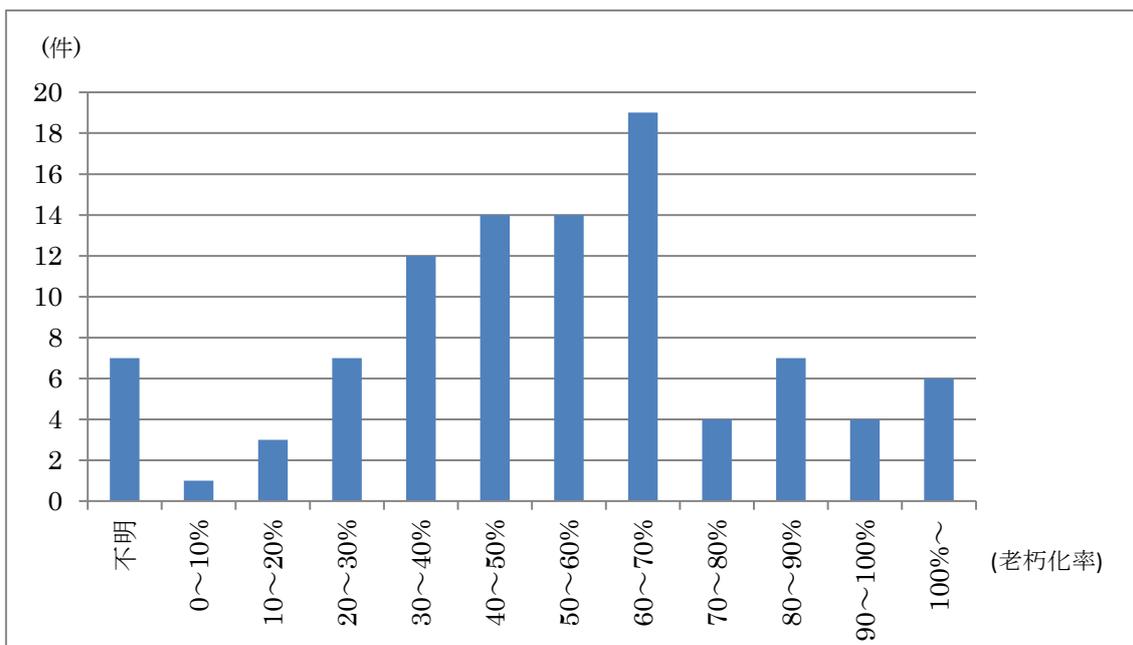


図 13 本村公共施設老朽化率

⑥ 将来の更新費用試算

公共施設等更新費用試算ソフトの用途別単価に準拠した下記表を使用します。

分類	大規模改修		建て替え	
	単価	単位	単価	単位
学校教育系施設	17	万円/㎡	33	万円/㎡
文化系施設	25	万円/㎡	40	万円/㎡
社会教育系施設	25	万円/㎡	40	万円/㎡
スポーツ・レクリエーション施設	20	万円/㎡	36	万円/㎡
子育て支援施設	17	万円/㎡	33	万円/㎡
保健・福祉施設	20	万円/㎡	36	万円/㎡
医療施設	25	万円/㎡	40	万円/㎡
行政系施設	25	万円/㎡	40	万円/㎡
その他	20	万円/㎡	36	万円/㎡

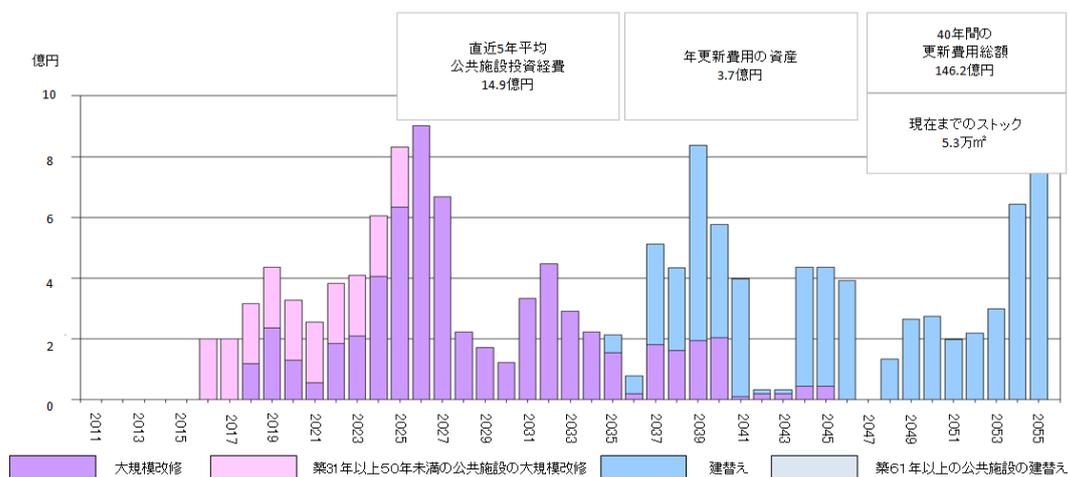


図 14 将来の更新費用試算図

2018年以降には、大規模改修が必要な施設が増え、2026年には約9億円の予算が必要と予測されます。

II. 生活インフラ施設の現況

① 道路

道路の総延長は約 93km、村道の舗装率が約 89%と、ほとんどの道路の舗装を終えている状態です。

また、整備状況については構造令等の基準に適合している改良済の村道が約 60%となっています。

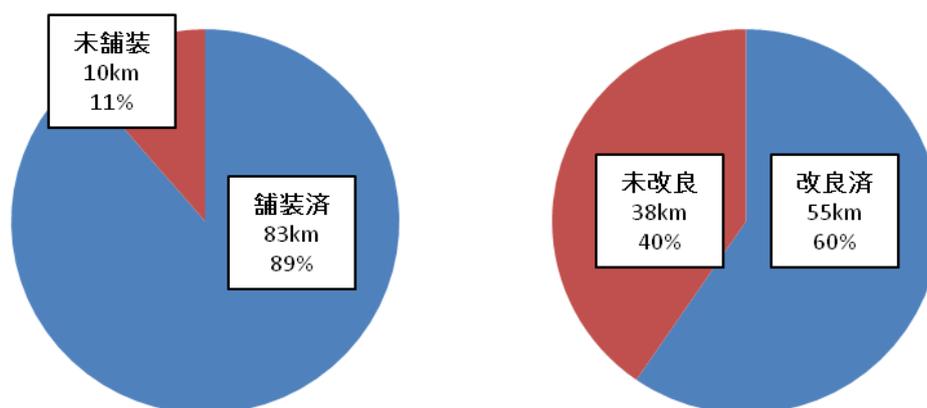


図 15 舗装・改良の状況

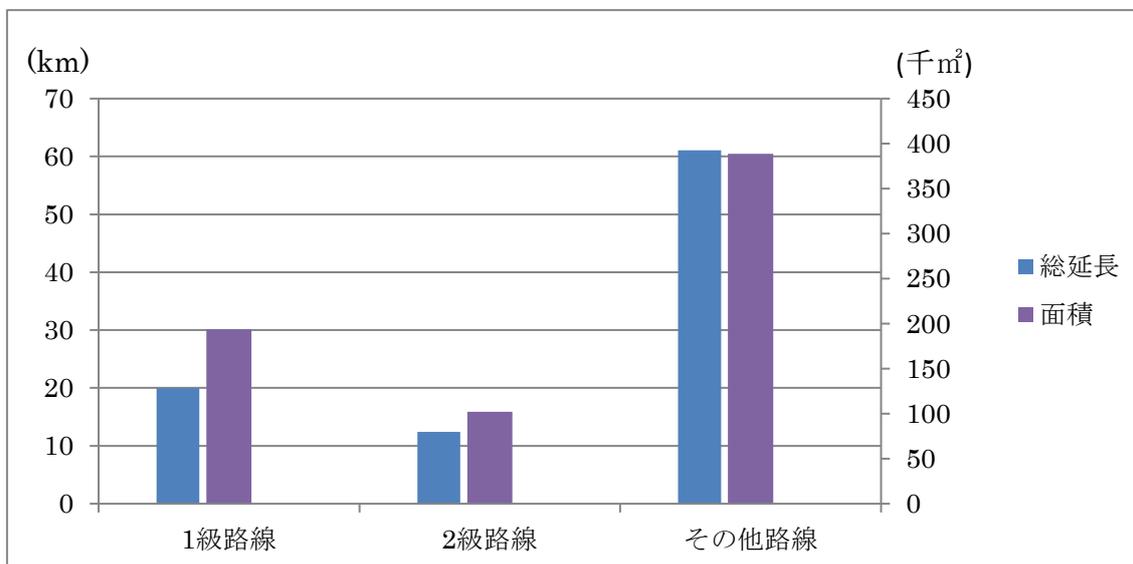


図 16 道路種別総延長・面積

※面積は幅員の平均値に延長の値を乗算し算出

② 橋梁

橋梁の総延長は約 599m あり、橋数は 48 橋となっています。昭和 46 年に多くの橋梁が架設されており、約 5 年後には橋梁の一般的な耐用年数である 50 年を超えてしまうため、今後対策が必要となります。

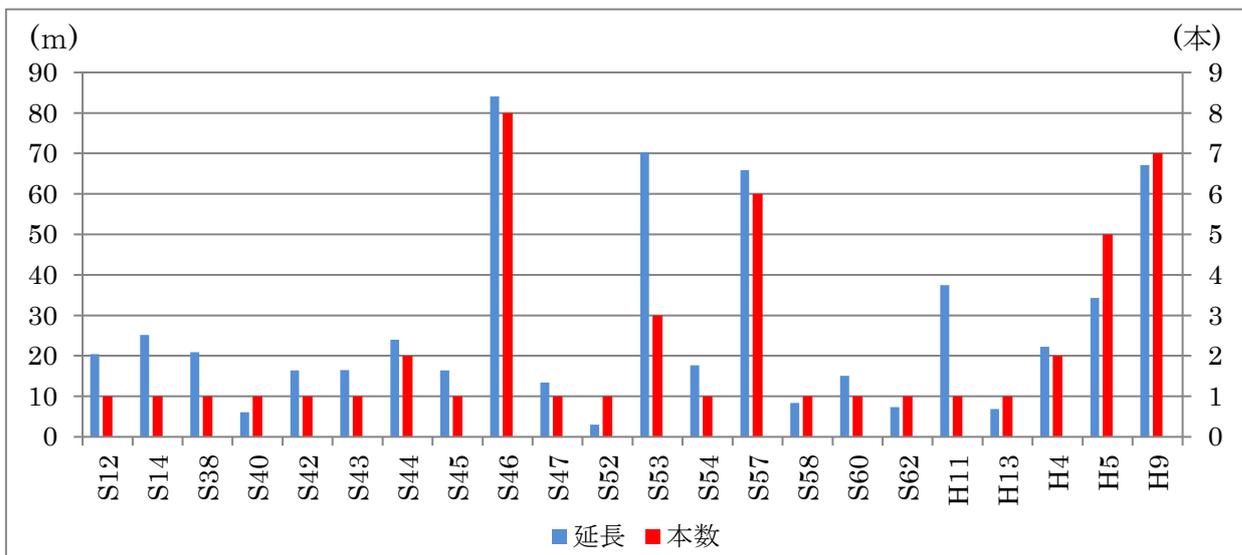


図 17 年次別橋梁延長と橋梁数

③ 上水道

簡易水道施設が1事業（北山下吉、大塩、大久保、上川前、桧原、金山、早稲沢、裏磐梯、関屋、下川前、新田、小野川、長峯）あります。管路延長は、導水管が約17km、送水管が約2km、配水管が約54kmとなっています。

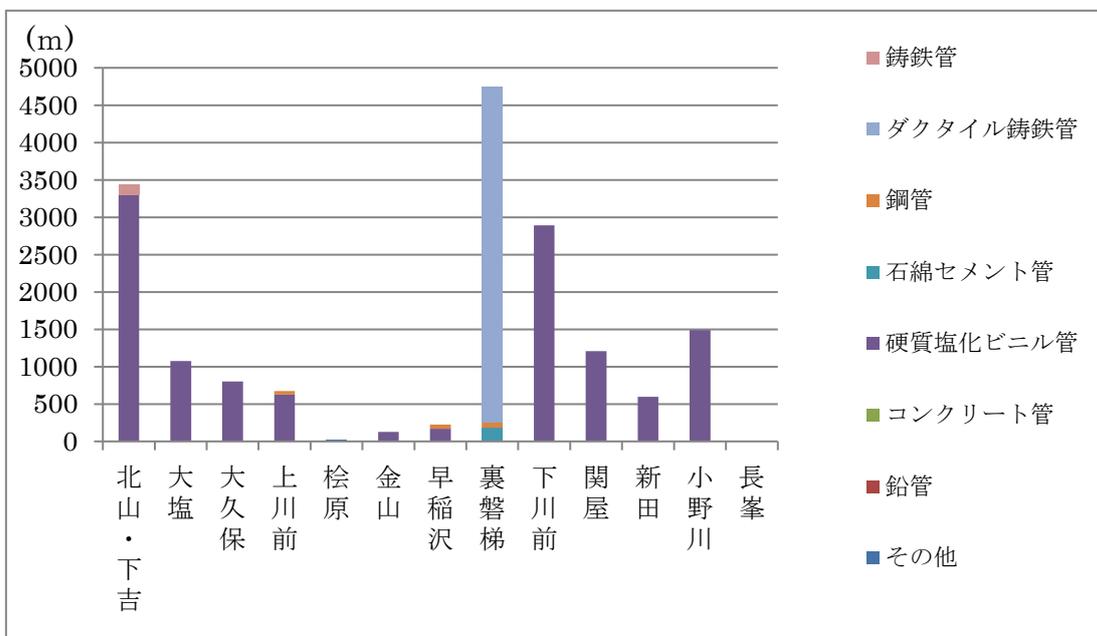


図 18 導水管・施設毎延長

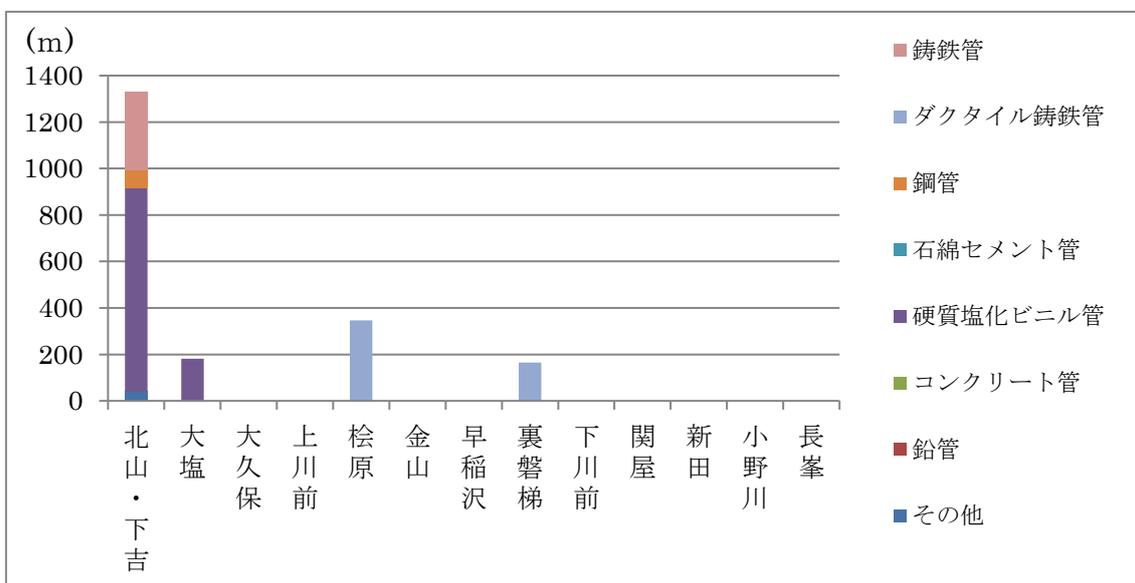


図 19 送水管・施設毎延長

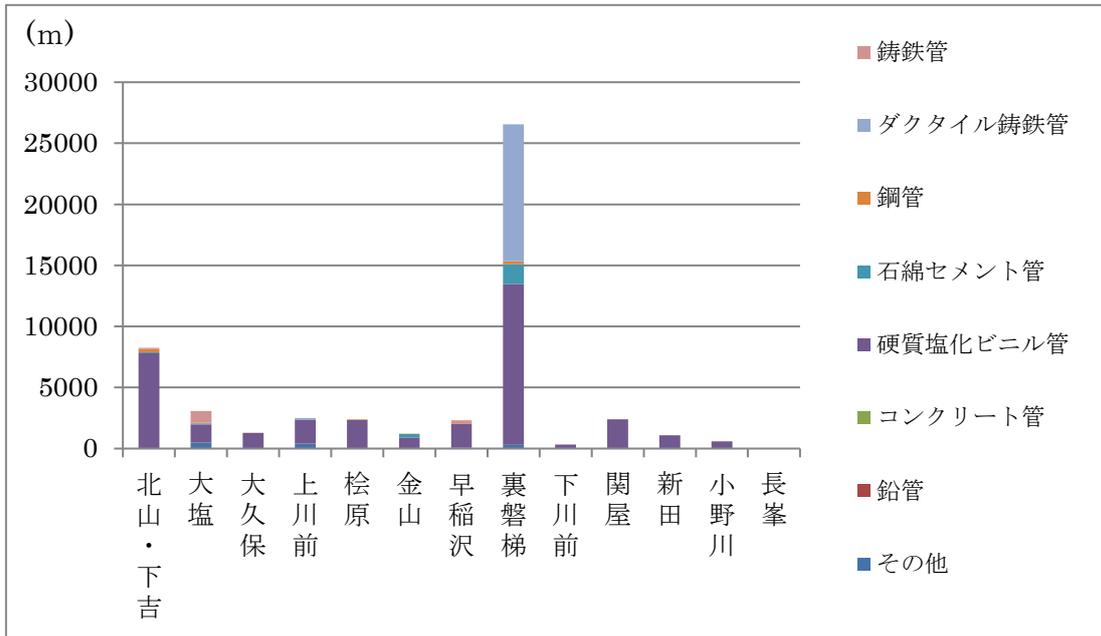


図 20 配水管・施設毎延長

④ 下水道

浄化センターが3箇所、処理場が4箇所(うち1箇所が簡易排水施設)あり、管渠総延長が約67kmあります。1990年代後半から、2000年代前半にかけて多くの管渠が竣工され、今後一斉に更新時期をむかえることとなります。

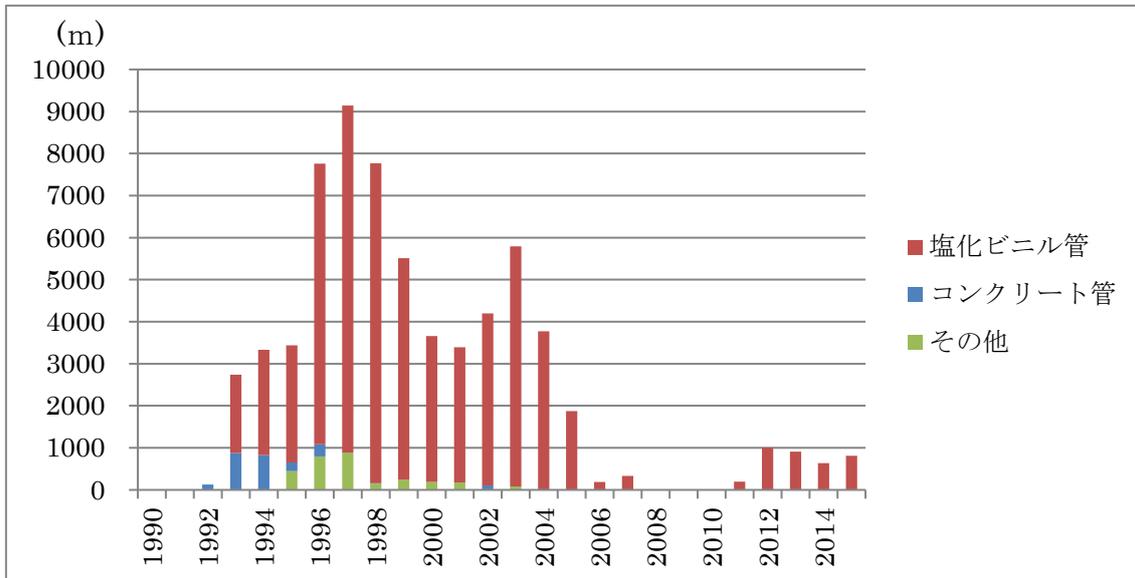


図 21 管種別年度別延長

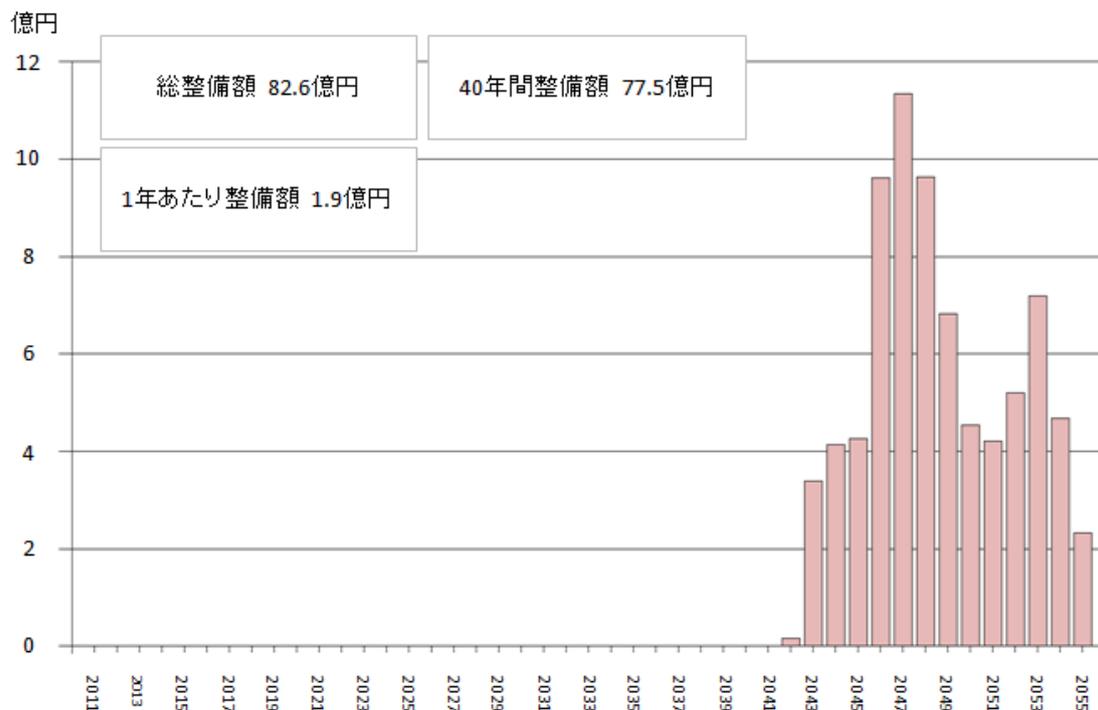


図 22 将来の更新費用推計

第四章 公共施設等の管理に関する基本方針

I. 公共施設における現状と課題

① 財源の不足

人口が急激に減少することが予測されることにより、税収をはじめとした財源の不足が深刻な問題として今後出てくることとなります。

② 老朽化対策

現在村内に存在している施設は比較的新しいものが多いですが、今後徐々に老朽化対策を検討すべき施設が増えてくることが予想されます。

③ 住民ニーズの変化

今後生産年齢人口の伸びは鈍化し、老年人口の割合が大幅に増加していくことが予想されています。人口構成の変化や住民ニーズの変化に応じた公共施設のあり方を考えて行く必要があります。

II. 全体目標

公共施設における現状と課題、施設の改修・更新にかかる将来コストの試算をふまえ、全体目標を設定します。

① 新規整備の検討

長寿命化、維持補修計画などを適正に行い、既存施設の有効活用を図り、新規整備については、スクラップ and ビルドを推進した上で、慎重な検討をします。

② 施設総量（総床面積）の縮減

用途が重複している施設、分野を超えて重複している機能については、統合・整理を検討します。

稼働率の低い施設は運営改善を徹底。稼働率が低い場合は統合・整理を検討します。

Ⅲ. 公共施設等の維持管理方針

① 計画的な保全

限られた財源の中で維持管理・修繕・更新を適切に実施するためには、損傷や不具合が生じてから対応する事後保全型の対応ではなく、点検診断等の結果を踏まえた計画的な予防保全型の対応に切り替える必要があります。

② 維持管理費用の低減

経常修繕や設備保守等の維持管理については、法令等に準拠した維持管理の適切な実施とともに、機械化・省エネ型設備の設置の推進や指定管理者制度の有効活用により、維持管理費用の低減に努めます。

③ 総合的な把握と判断

施設の大規模改修または更新の実施を判断する際には、施設ごとの適正な配置等について検討するとともに、点検診断等の結果に基づき老朽化等の施設の状況を的確に把握し、耐用年数及び施設の利用状況等も勘案し、総合的に検討して決定します。

④ 費用対効果を検証

施設の機能向上や延命化を図るための大規模修繕は、施設類型別の再配置計画等を踏まえ、更新をせずに施設の延命効果が確保できることなどの費用対効果を検証の上で、今後とも長期存続を図る施設に限定して、計画的に実施するものとします。

⑤ 需要にあわせた更新

建替え等の更新は、施設類型別の再配置方針及び人口減少や少子高齢化等による利用需要の変化等を踏まえて必要最低限度の更新工事を行うものとし、統合や廃止の方針を踏まえ、建替えを行う場合は、慎重な検討をします。

⑥ PPP／PFI手法の導入

公共施設等の更新にあたっては、民間の技術やノウハウ、資金等を活用することで財政負担を軽減できる場合もあるため、PPP／PFI手法の導入について検討します。

⑦ ユニバーサルデザイン化の推進

今後も維持していく公共施設等の修繕・更新時には、利用者の性別、年齢、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もが利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザイン化を図ります。

⑧ 耐震化の推進及び安全性の確保

公共施設は、災害時において避難所など防災拠点施設として重要な機能を果たすことから、耐震診断を実施し、耐震補強が必要な施設については計画的に耐震改修を行い、耐震化を進めます。また、点検や診断等により、異常が認められた場合には速やかに修繕等を実施し、施設の安全性の確保に努めます。

IV. 公共施設等の維持管理、更新等に係る経費の見込み

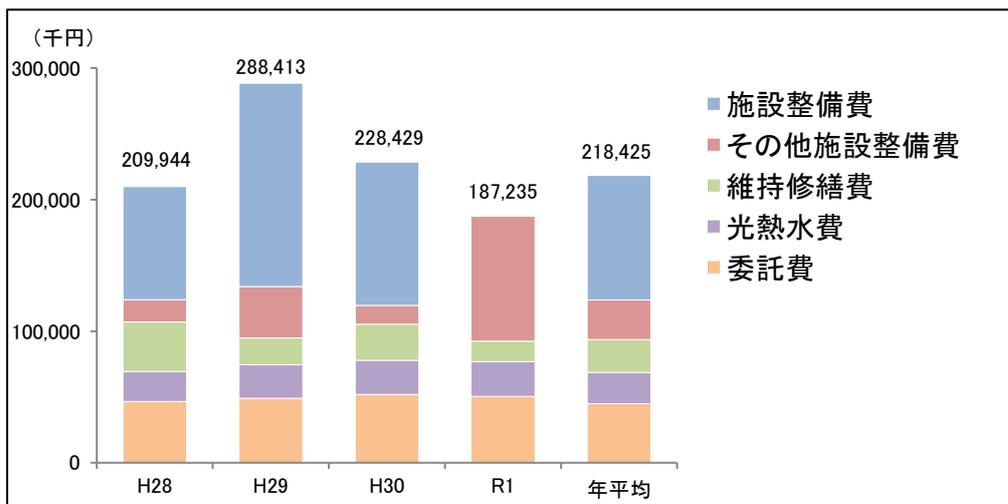
① 公共施設等の維持管理および長寿命化

本村が保有する公共施設等については、施設管理者による日常的な点検や法令等に基づく定期点検を実施し、計画的に劣化や損傷を修繕することで、施設の長寿命化を図ります。

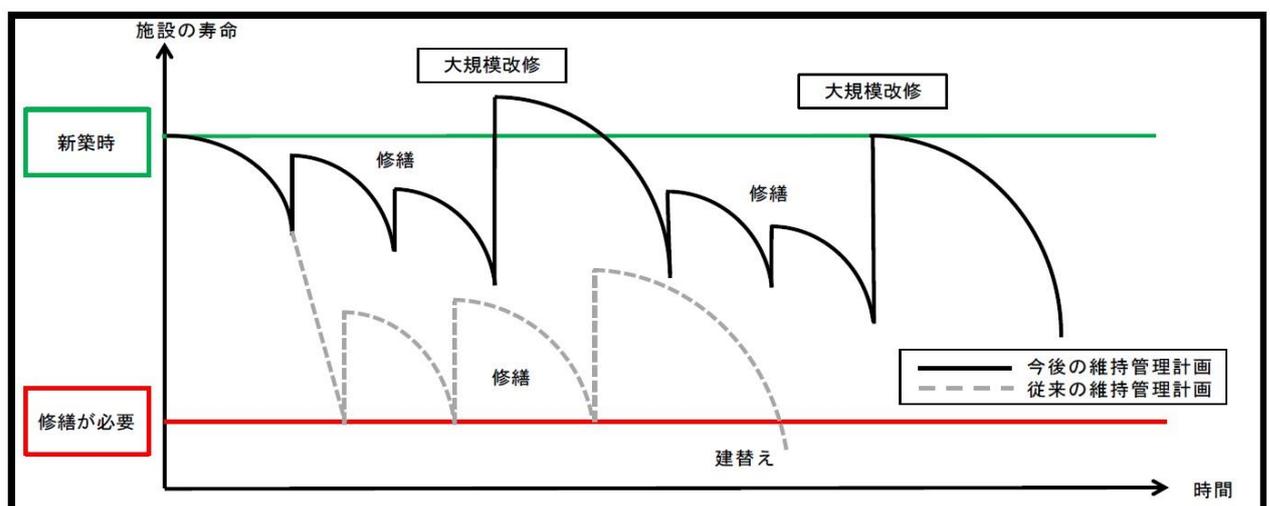
また、施設の長寿命化を図り、ライフサイクルコストを縮減することで、施設の維持管理や更新に伴う財政負担の軽減を目指します。

■公共施設の維持管理経費

年度	維持管理経費
平成28年度	209,944 千円
平成29年度	288,413 千円
平成30年度	228,429 千円
令和元年度	187,235 千円
H23~R元 年平均	218,425 千円



■長寿命化のための維持管理イメージ

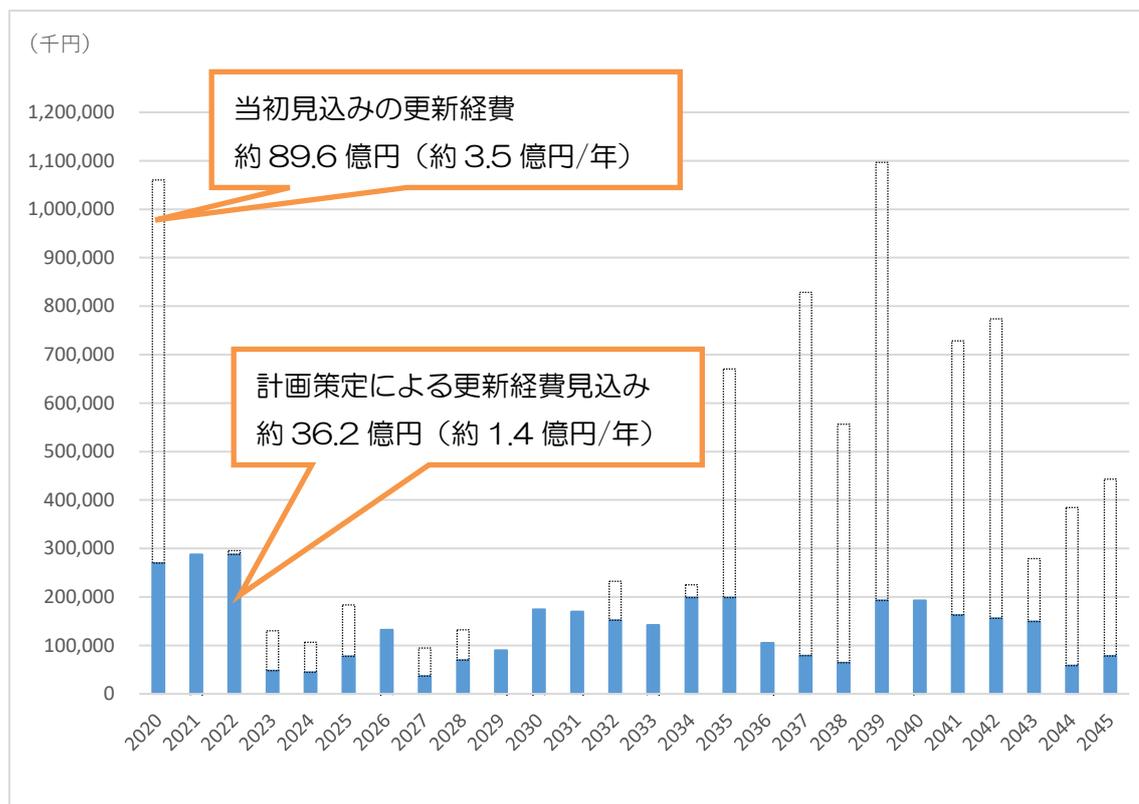


② 個別施設計画等を踏まえた更新経費の見込み

本村の保有する公共施設について、今後26年間、現状の施設数や規模を変えずに維持した場合の更新経費を試算すると、約89.6億円（約3.5億円／年）となる見込みですが、各個別施設計画に基づく施設保有総量の縮減等を踏まえた更新経費を試算すると、約36.2億円（約1.4億円／年）となり、約53.4億円（約2.1億円／年）縮減される見込みです。

なお、ラビスパ裏磐梯については、リノベーションの方針が未定であり経費の算出が困難であることから、更新経費を試算していません。また、インフラ施設についても、統廃合等による保有総量の縮減が難しいため、各個別施設計画等を踏まえた更新経費を試算していませんが、計画的な施設の点検等の実施により長寿命化を図り、更新経費の縮減に努めます。

■ 個別施設計画等を踏まえた公共施設の更新経費の見込み



※当初見込みの算出基準

→使用年数：耐用年数 長寿命化：考慮しない 施設の更新：全施設更新
 大規模改修：行なわない 計画改修：20年毎

※当初見込みの算出基準

→使用年数：目標耐用年数 長寿命化：考慮した 施設の更新：一部更新
 大規模改修：行なう 計画改修：20年毎

第五章 施設分類ごとの基本方針

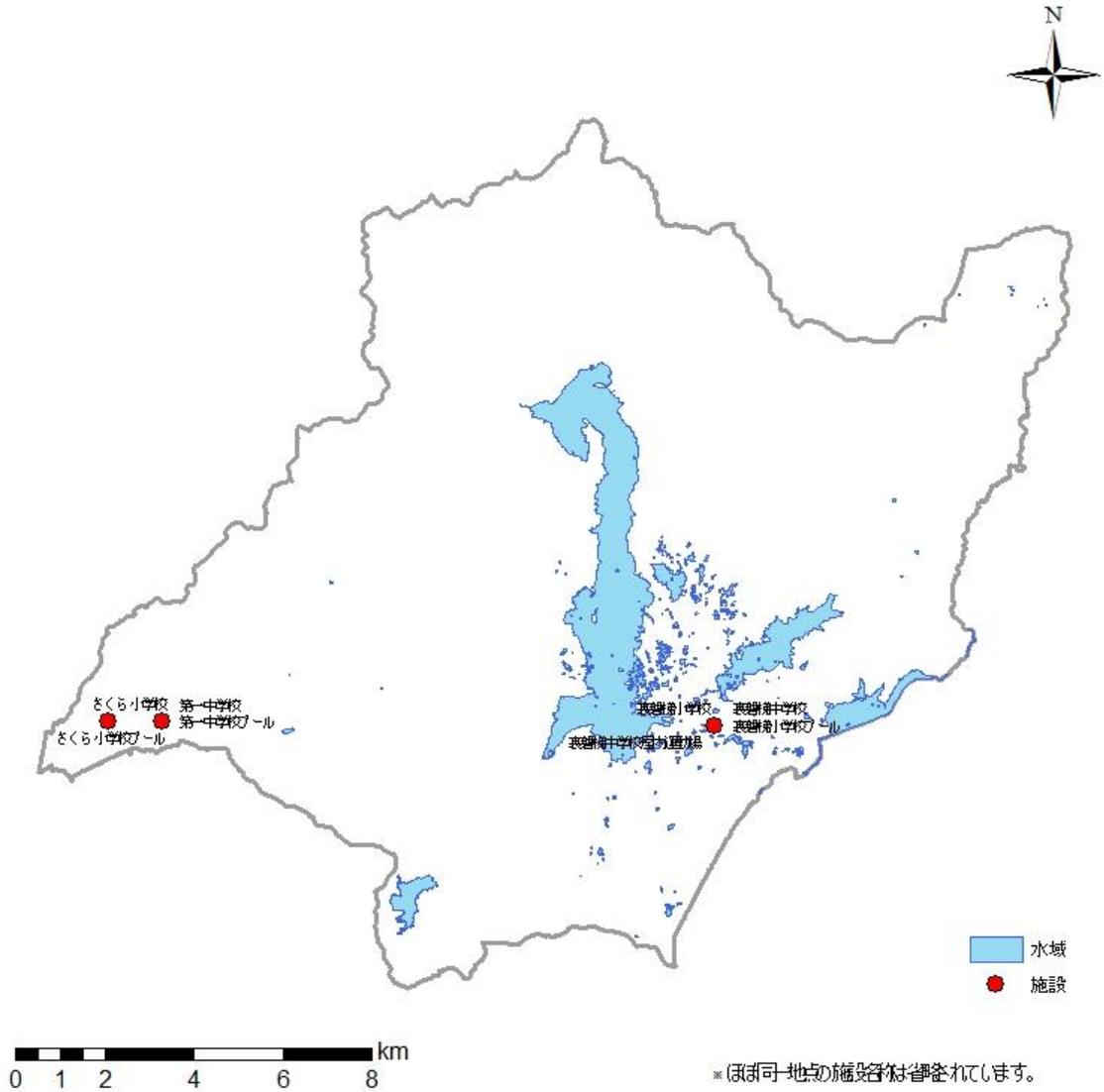
ここでは、施設分類毎に利用頻度・維持管理費・老朽化をはじめ、様々な視点より各施設について分析を行います。最終的にまとめられたグラフは、右図のように見ることができます。右に行けば行くほど「利用者の多い施設」となり、上に行けば行くほど「維持管理費が高い施設」となります。今後は、「優良施設は優先的に維持管理を行い、要検討施設に関しては施設維持方法の見直しや廃止等の検討を行っていく」こととなります。



I. 建築系公共施設の管理に関する基本的な方針

① 学校教育系施設

i. 施設の設置状況



ii. 施設一覧

資産名	地域	延床面積 (㎡)	構造	取得年 度
さくら小学校	北山	1,959	RC	1981
さくら小学校屋内運動場	北山	822	S	1982
さくら小学校プール	北山	325	RC	2001
北塩原村学校給食調理場	北山	243	RC	1997
第一中学校	北山	2,061	RC	1986

第一中学校屋内運動場	北山	1,019	S	1987
第一中学校プール	北山	433	RC	1988
裏磐梯小学校	裏磐梯	2,312	RC	1992
裏磐梯小学校屋内運動場	裏磐梯	830	S	1993
裏磐梯小学校プール	裏磐梯	393	RC	1996
裏磐梯学校給食共同調理場	裏磐梯	154	RC	1977
裏磐梯中学校	裏磐梯	2,170	RC	1994
裏磐梯中学校（屋内運動場）	裏磐梯	931	S	1995

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) さくら小学校・屋内運動場・プール・北塩原村学校給食調理場

昭和57年度に建築を行い、築34年経過しています。

平成13年度にはプールの改修、平成19年度には小学校の大規模改修、平成27年度には屋内運動場の屋根とトイレの改修を行っています。

風力発電及び太陽光発電の設備が整っており、電力におけるコスト削減に取り組んでいます。旧大塩小学校との統合に伴い、周囲に同様の施設は無く、今後長期的に維持管理を行っていく必要性が求められます。

平成27年度の生徒数は100名となっています。

なお、給食調理場は平成9年度に整備されており、築19年が経過しています。

(イ) 第一中学校・屋内運動場・プール

昭和62年度に建築し、築29年経過しています。

校舎はガラスブロックの一部雨漏りがあり、施設の痛みが激しい状態です。全体的に設備関係の故障があり、優先的に大規模改修を行うべきと考えます。平成27年度の生徒数は46名となっています。

屋内運動場も昭和62年度に建築していますが、平成26年度に屋根塗装を行っています。プールは昭和63年度に建築しています。

(ウ) 裏磐梯小学校・屋内運動場・プール・学校給食共同調理場

平成5年度に建築し、築23年経過しています。校舎と屋内運動場は豪雪地帯にもかかわらず複雑な屋根の形状をしている影響か、階段や廊下などに雨漏りがある為、優先的な改修を行うべきと考えます。平成27年度の生徒数は56名となっています。プールは平成8年度に建築されていますが、地理的なことから維持費の割に使用頻度は少ない為、近

隣の村有施設を使用するなど、検討が必要と思われます。

(工) 裏磐梯中学校・屋内運動場

平成7年度に建築され、築21年が経過しています。校舎と運動場のエキスパンジョイント屋根部分が雪の影響によるものか、ズレが生じてきている状態となっています。また、外壁が木造の為に朽ちているところがあるが、平成28年度に一部修繕を予定しており、平成30年度以降の全面改修に向けて計画を予定しています。平成27年度の生徒数は35名となっています。屋内運動場は平成8年度に建築され、築20年が経過しています。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

学校教育系施設は、「裏磐梯」「北山」2箇所に集中しています。北塩原村においては既に学校統廃合が行われており、遠方からはスクールバスでの通学体制が取られています。学校施設という性質上、これ以上の統廃合はコスト的にも利用者数的にも難しいと思われませんが、施設維持費の地域差が非常に大きいため、類似施設である子育て支援施設と併せて今後検討していく必要があります。

(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当り 年間維持費	老朽化率
さくら小学校	100	102,612	40.64%
第一中学校	46	256,777	67.17%
北塩原村学校給食共同調理場	(201)	8,575	38.30%
裏磐梯小学校	56	379,769	51.36%
裏磐梯中学校	35	591,781	51.75%
裏磐梯学校給食共同調理場	(104)	不明	80.85%

※ () 内人数は地域生徒数(小学校・中学校・併設幼稚園)の合計より算出。

一人当たり年間維持費 = ((建築費用 ÷ 耐用年数) + 年平均支出費用) ÷ 利用者数

老朽化率 = ((改修時築年数 ÷ 耐用年数) ÷ 2) + (築年数 ÷ 耐用年数)

曾原・狐鷹森生活改善センター	裏磐梯	113	RC	1981
長峯交流センター	裏磐梯	143	S	2012
北塩原村自然環境活用センター	裏磐梯	1,209	RC	1984
北塩原村生活改善センター	桧原	451	RC	1975
北塩原構造改善センター	北山	615	RC	1988
桧原多目的集会所	桧原	389	W	2003

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) 北塩原村生涯学習センター・旧大塩小学校（屋内運動場・プール）・旧大塩幼稚園

昭和57年度に建築され、築33年が経過していますが、平成26年度に改修工事を行っています。現在は教育委員会事務所及び会議室・展示室・実習室として利用されています。事務所以外の利用頻度は3000人程度となっており、利用頻度は高いです。村の条例により利用料が発生しない形での団体利用がほとんどとなっており、施設自体の収入はありません。

旧幼稚園は平成16年に建築され、現在は補修を急ぐ部分はないと思われます。現在村民活動の際に貸出等を行っています。使用頻度はあまり高くはないため、今後利用目的を検討しなければならないと思われます。

(イ) 北塩原村グリーンセンター

当初は克雪センターとして建てられ、児童館としても活用されましたが、その後同地区内に幼稚園が建てられたため、現在は倉庫として利用されています。しかし、老朽化も激しいために、現在解体が検討されています。

(ウ) 北塩原村活性化センター

当初は高齢者の健康増進のために体育館を含む施設として作られました。現在は無人の施設となっています。大塩地区内での団体が体育館での運動や和室での会合等で使用しています。近場には元々小学校として建てられた「生涯学習センター」がありますが、そちらの体育館設備等は使用出来ない状態になっているため、こちらの施設の使用頻度は高いです。平成4年に建てられたため、耐用基準年はまだ越えていません。

(エ) 生きがい学習施設

和室・キッチン・トイレがあり、金山地区の集会所として使用されている。平成17年に建てられた為、耐用基準年はまだ越えていません。

(オ) 曾原・狐鷹森生活改善センター

会議室・調理室があり、曾原・狐鷹森地区の集会所として使用されている。2地区で利用されているため、利用頻度は高いです。ただし湿地帯の側にあるため、破損等が激しい部分があります。平成19年に畳をフローリングに張り替える改修を行っていますが、フローリングも湿気で損傷箇所がでてきています。平成27年度には湿気対策工事を行いました。平成28年度には屋根の改修及び壁の湿気対策工事を行いました。

(カ) 長峯交流センター

昭和56年度に建設され、築34年が経過していますが、平成25年度に大規模改修工事を行っています。集会所としての利用だけでなく、消防団の施設や、投票所としても利用されており、設置意義は非常に高くなっています。

(キ) 北塩原村自然環境活用センター

昭和58年度に建築され、33年経過していますが、平成26年度に屋根補修を行っています。通年稼働の施設で、平成27年度はスポーツ少年団や敬老会等372団体5391人が使用しています。

(ク) 北塩原村生活改善センター

早稲沢地区の集会所として使用されています。早稲沢地区高原野菜普及のための打合せや、選挙時の投票所としても利用されていますが、施設自体は殆ど利用されることがない状態となっています。昭和50年に建てられましたが、耐震化診断を平成22年に行っています。平成12年に屋根塗装を行っています。また、平成22年にはトイレの改修も行なわれました。

(ケ) 北塩原構造改善センター

昭和63年度に建築され、築26年が経過しています。

内部は事務室・会議室・農産物加工施設で構成されています。農産物加工施設は自家用味噌を造るための設備が整っていますが、冬期間の2ヶ月程度しか稼働していないのが現状となっています。事務室は村の商工会が使用しています。また、施設がある北山地区には集会施設が他に無いため、会議室を地域の集会場として利用されていることも多く、施設としては使用頻度が高くなっています。

(コ) 松原多目的集会所

当初は小学校の校舎だった建物を展示施設として利用しておりましたが、平成15年度に増築、既存建物の改修を行い、現在の施設となりました。現在は増築した部分を地区の集会所としての利用や、選挙の投票所として利用しており、既存建物の部分を民間食堂として平成28年11月にオープンしました。維持管理は地区で行っているため、村としての固定費はありません。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

村民交流のための施設として各地区に1件以上建てられています。各施設ともに利用頻度が高いため、施設としての需要があるが、北塩原村グリーンセンターについては、一切利用されていない現状と老朽化を考え、施設廃止を検討すべきと思われます。

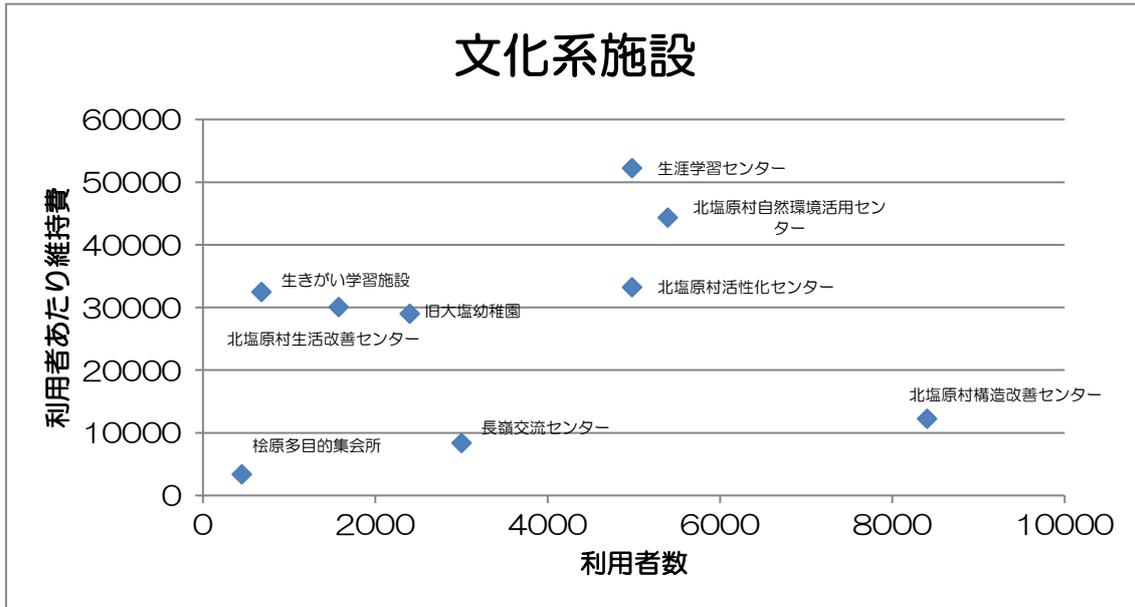
(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当り 年間維持費	老朽化率
旧大塩小学校プール	0	-	63.83%
旧大塩小学校屋内運動場	0	-	91.18%
旧大塩幼稚園	多	81,215	50.00%
北塩原村生涯学習センター			36.17%
北塩原村グリーンセンター	0	-	91.18%
北塩原村活性化センター	多	33,211	67.65%
生きがい学習施設	多	32,464	50.00%
曾原・狐鷹森生活改善センター	多	不明	72.34%
長峯交流センター	多	8,362	52.94%

北塩原村自然環境活用センター	多	44,348	65.96%
北塩原村生活改善センター	多	30,050	56.38%
北塩原構造改善センター	多	12,214	57.45%
桧原多目的集会所	多	3,345	56.82%

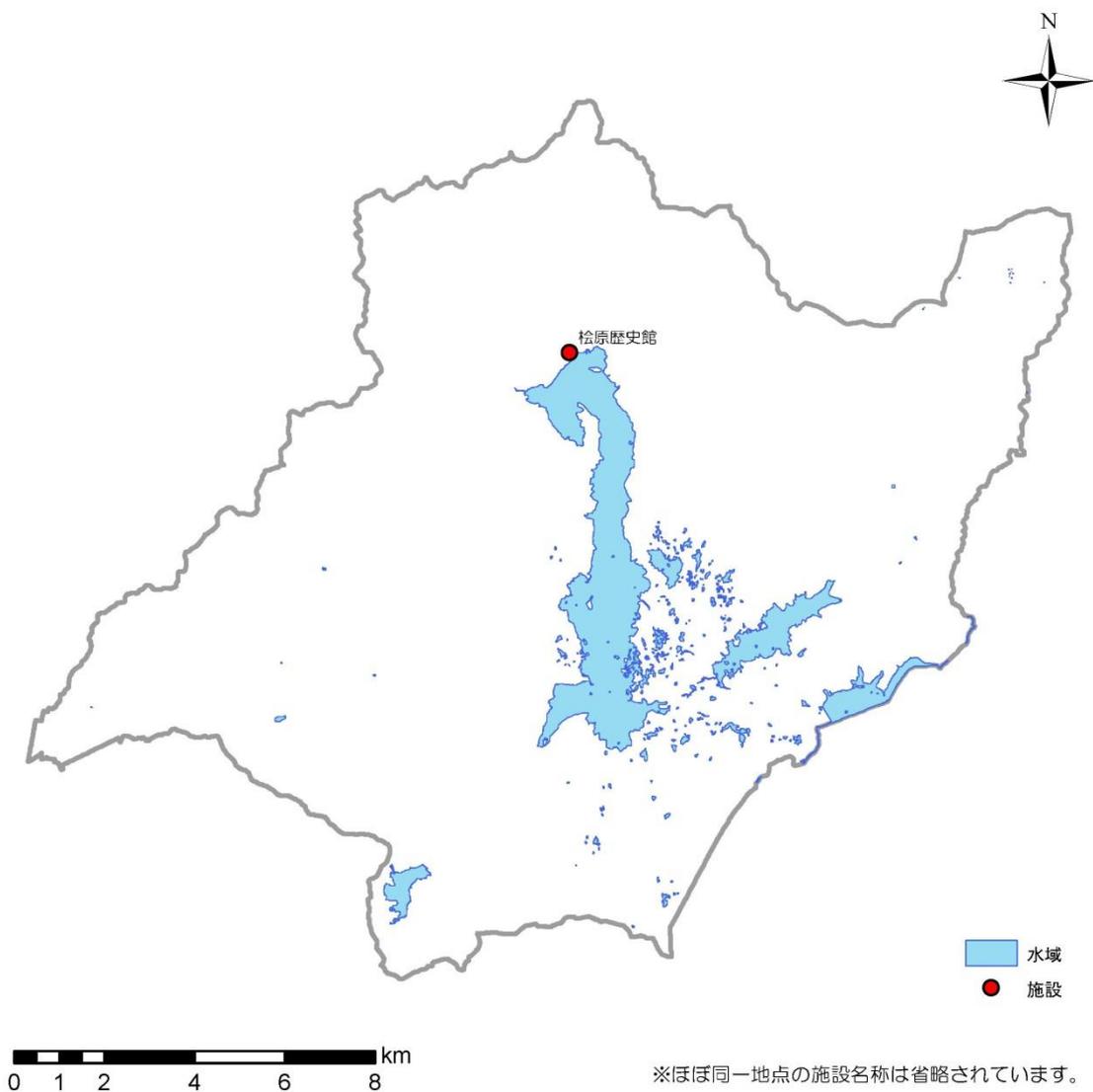
※老朽化率＝（経過年数 ÷ 耐用年数）

一人当たり年間維持費＝（（建築費用 ÷ 耐用年数）＋ 年平均支出費用） ÷ 利用者数



③ 社会教育系施設

i. 施設の設置状況



ii. 施設一覧

資産名	地域	延床面積(m ²)	構造	取得年度
桧原歴史館	桧原	284	W	1998

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) 桧原歴史館

平成10年度に建設し、17年が経過していますが、平成27年度に屋根改修を行っています。維持には年平均310万円程度かかっています。

桧原歴史館運営協議会で管理しており、会津山塩を使ったラーメンなどの提供を行う食堂としても機能しており、季節を問わず、多くの方が利用しています。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

利用状況に関してのデータが存在しないため、今後管理を行っていくうえで、利用状況に関して把握していく必要があると思われます。一ヶ月あたり地域人口の5割程度の人数(約75名)が利用すると仮定した場合で評価します。

(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当り年間維持費	老朽化率
桧原歴史館	894	6,178	40.91%

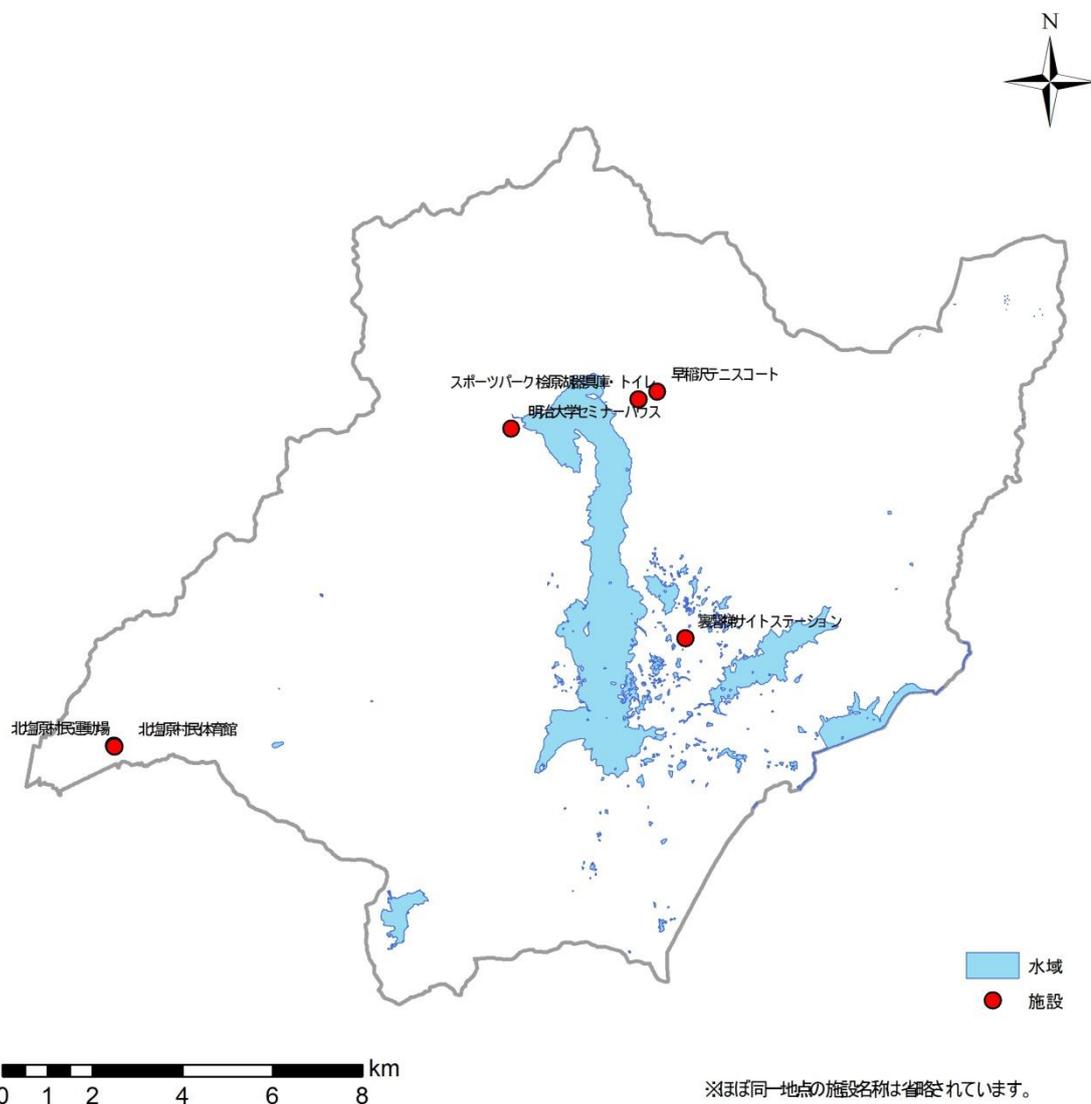
※老朽化率 = (経過年数 ÷ 耐用年数)

一人当たり年間維持費 = ((建築費用 ÷ 耐用年数) + 年平均支出費用) ÷ 利用者数



④ スポーツ・レクリエーション施設

i. 施設の設置状況



ii. 施設一覧

資産名	地域	延床面積(m ²)	構造	取得年度
北塩原村民体育館	北山	1,059	S	1975
北塩原村民運動場	北山	-	-	1975
明治大学セミナーハウス	桧原	2,424	RC	1977
スポーツパーク 桧原湖 器具庫・トイレ	桧原	128	W	1999
裏磐梯サイトステーション	裏磐梯	349	W	1997
早稲沢テニスコート	桧原	-	-	1985

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) 北塩原村民体育館

昭和51年に建築され、築40年が経過しています。耐震診断は平成21年に行っていますが、長寿命化対策等は特に行っていないため、全体の修繕および改修が必要となってくると考えられます。施設利用者数は年間延べ約3,000人程度となっています。ステージ側屋根が陸屋根の形状となっているが、雨漏り等が酷い状態となっているため、早急な対策を検討する必要があります。

(イ) 北塩原村民運動場

昭和50年にグラウンド、テニスコートが整備され、築41年が経過しています。年平均グラウンドが約2000名、テニスコートが約60名の利用があり、テニスコートの利用頻度が少ないです。これまで都度修理や修繕を行っておりますが、今後体育館を含めた全体利用計画を行い、改修工事を行う必要があります。

(ウ) 明治大学セミナーハウス

元々は小学校として昭和52年に建築されました。現在は明治大学と協定を結び、大学の施設として合宿等に使用されています。契約協定は平成28年度で終了する予定となっています。平成24年度に体育館のみ耐震化診断工事を行いました。校舎側は何も行っていないため、今後使用を続ける場合は校舎の耐震化等対応を検討する必要があると考えられます。利用頻度は高いが、村として管理していくことについては今後検討する必要があると考えられます。

(エ) スポーツパーク松原湖競技場・管理棟・器具庫・トイレ

平成12年に建設され、築16年が経過しています。大規模改修や長寿命化対策は現時点で行われていません。稼働は5月～11月で、平成27年度には約6,000人の利用者があり、計50万程度の利用料を徴収しています。今後はトイレの改修工事を予定しています。

(オ) 裏磐梯サイトステーション

平成9年度に建築され、築18年が経過していますが、平成23年7月に屋根・外装工事を行っています。年間約20,000人以上の利用があるため、利用率は高いと言えます。他の同様施設と比較しても、早急な修繕の検討は今のところ無いと考えられますが、需要が高い

ために、長期的な維持管理計画を練っていく必要があります。

(カ) 早稲沢テニスコート

昭和 60 年に整備され、築 31 年が経過しています。老朽化が著しく、現在は一切使用されていません。今後施設の在り方について検討していく必要があると思われます。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

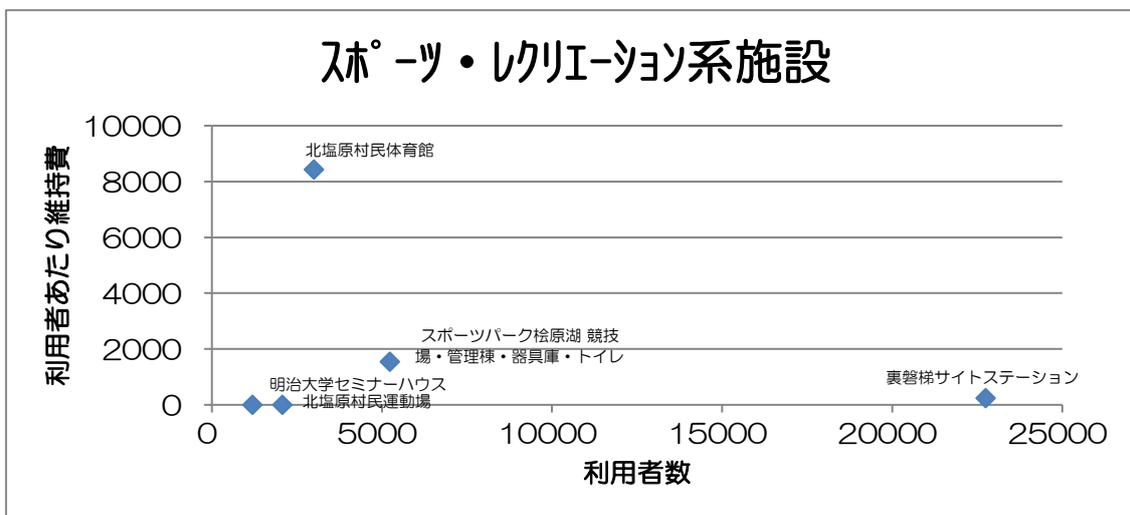
住民が多い地域にもかかわらず使用頻度が低い施設が見受けられ、また老朽化の影響による修繕の必要性が感じられるが、近場にある他施設との統合も検討していく必要があるとおもわれます。

(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当り年間維持費	老朽化率
北塩原村民体育館	3,000	8,434	85.11%
北塩原村民運動場	2070	不明	-
明治大学セミナーハウス	1,189	不明	80.85%
スポーツパーク桧原湖 競技場・管理棟・器具庫・トイレ	5,227	1,550	72.73%
裏磐梯サイトステーション	22,748	240	81.82%
早稲沢テニスコート	0		-

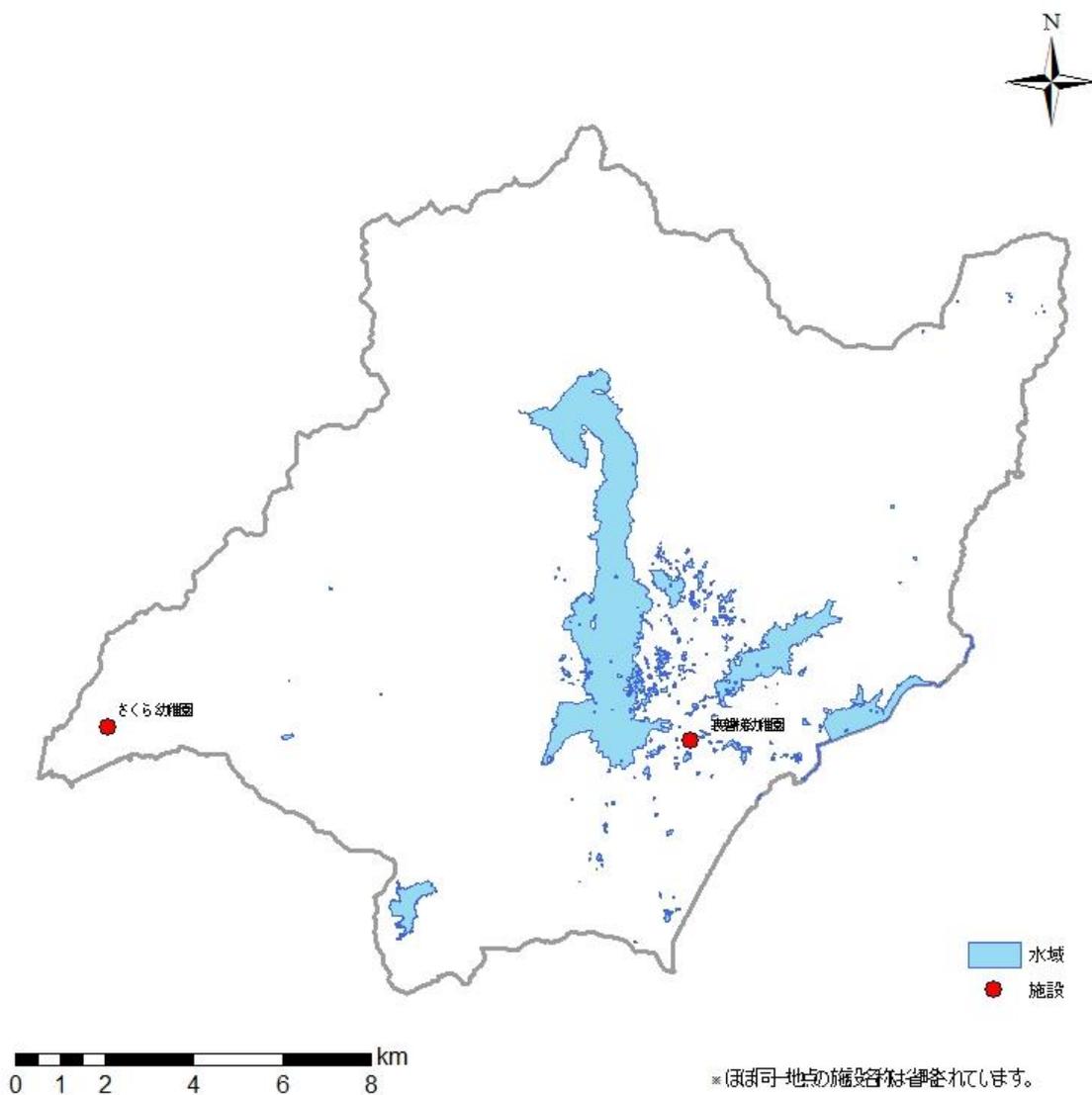
※老朽化率＝（経過年数 ÷ 耐用年数）

一人当たり年間維持費＝（（建築費用 ÷ 耐用年数）＋ 年平均支出費用） ÷ 利用者数



⑤ 子育て支援施設

i. 施設の設置状況



ii. 施設一覧

資産名	地域	延床面積(m ²)	構造	取得年度
さくら幼稚園	北山	456	RC	1991
裏磐梯幼稚園	裏磐梯	429	RC	1998

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) さくら幼稚園

平成4年に北山児童館として建築されました。平成11年に改築し、現在はさくら幼稚園として使用されています。平成26年度に屋根塗装・フェンス改修が行われています。年間の補修は、軽微な維持補修程度しかかかっていません。旧大塩幼稚園と合併が行われているため、周囲に同様の施設は無く、今後にかけても維持は必須と思われます。平成27年度の園児数は55名となっています。

(イ) 裏磐梯幼稚園

平成11年に建築され、築17年が経過しています。長寿命化対策等は特におこなわれていません。毎年小規模な修繕箇所があるが、現時点で大規模な修繕等が必要な所はありません。周囲に同様の施設は無く、今後にかけても維持は必須と思われます。平成27年度の園児数は13名となっています。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

一人当たりの年間維持費に大きな差が出ています。学校教育系施設と併せての様々な検討が必要になってくると考えられます。

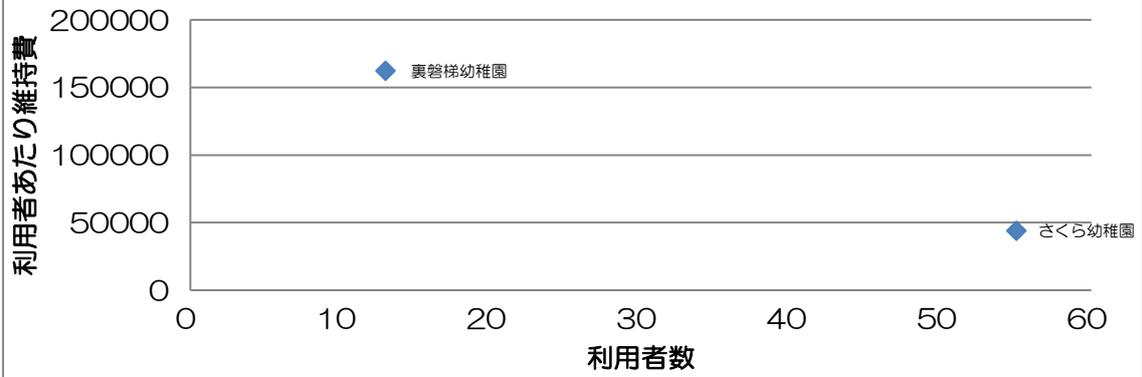
(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当り 年間維持費	老朽化率
さくら幼稚園	55	43,891	39.71%
裏磐梯幼稚園	13	162,326	1.40%

※老朽化率＝（経過年数 ÷ 耐用年数）

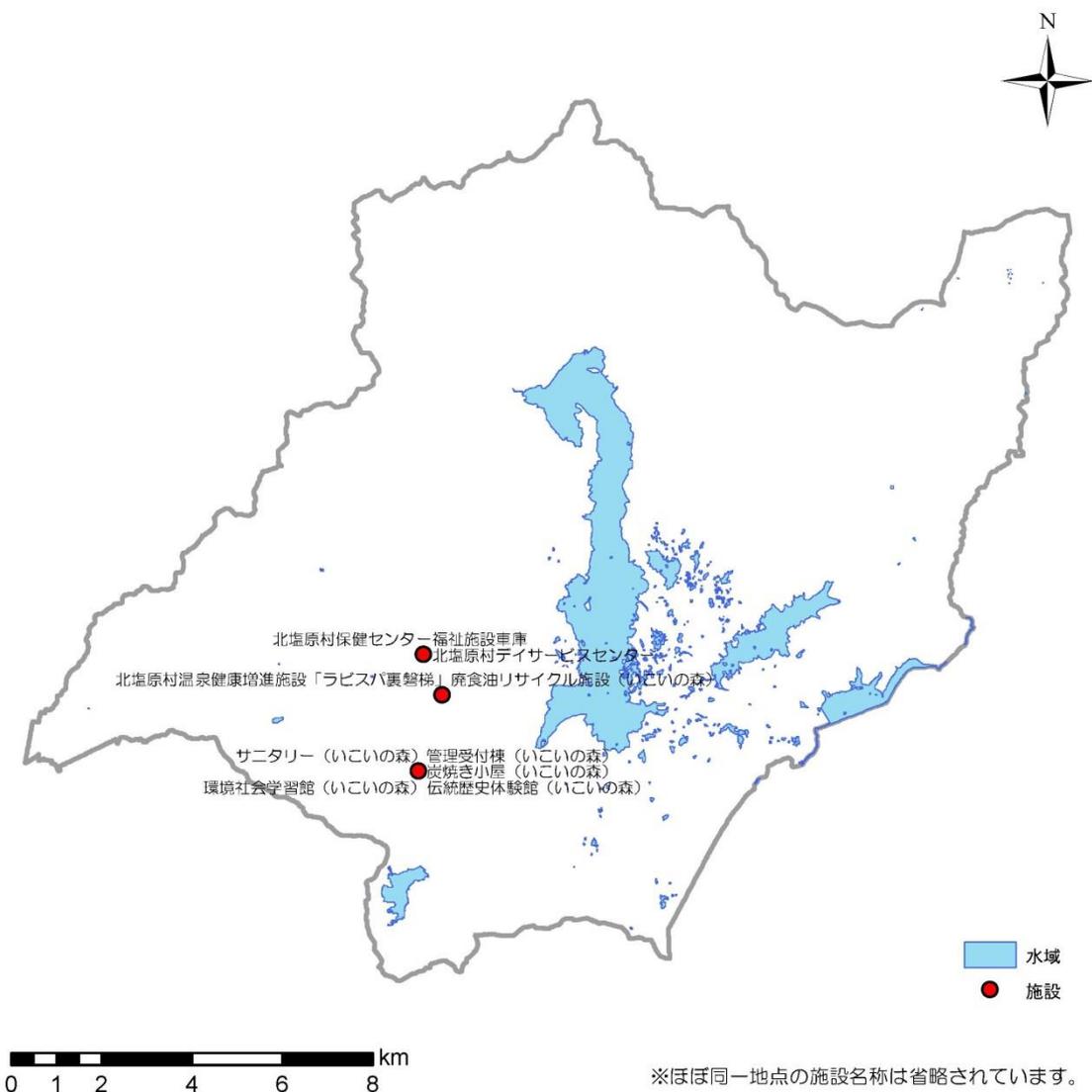
一人当たり年間維持費＝（（建築費用 ÷ 耐用年数）＋ 年平均支出費用） ÷ 利用者数

子育て支援施設



⑥ 保健・福祉施設

i. 施設の設置状況



ii. 施設一覧

資産名	地域	延床面積(m ²)	構造	取得年度
北塩原村デイサービスセンター	大塩	820	RC	1998
福祉施設車庫	大塩	100	S	2010
北塩原村保健センター	大塩	651	RC	2001
北塩原村温泉健康増進施設 「ラビスパ裏磐梯」	大塩	5,404	RC	1996
体験交流センター (いこいの森)	大塩	299	W	2000
生活文化交流館 (いこいの森)	大塩	130	W	2000
環境社会学習館 (いこいの森)	大塩	130	W	2000

伝統歴史体験館（いこいの森）	大塩	130	W	2000
炭焼き小屋（いこいの森）	大塩	84	W	2000
サニタリー（いこいの森）	大塩	75	W	2001
管理受付棟（いこいの森）	大塩	4	W	2001
廃食油リサイクル施設（いこいの森）	大塩	70	S	2002

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) 北塩原村デイサービスセンター・福祉施設車庫

平成11年に建築され、築17年が経過しています。大規模改修は今のところ行われておらず、修繕については施設内設備に十数万レベルの修繕費がかかる程度である。大規模修繕の計画は今のところありません。利用者数は年々増加しており、施設としての需要は高いです。また、福祉施設車庫については福祉車両と公用車合わせて6台の車庫として利用されています。

(イ) 北塩原村保健センター

平成14年に建築され、築13年が経過しています。施設設備等に故障や不具合が発生した際にはその都度修繕および修理が行われており、建物自体には現時点で問題は無いと思われます。また、施設は乳幼児の検診や栄養指導、健康講演会、介護教室、住民のサークル活動、各種団体等の会議や学校関係の事業等で使用されているため、稼働率は高くなっています。

(ウ) 北塩原村温泉健康増進施設「ラビスパ裏磐梯」・いこいの森

平成8年に建築され、築20年が経過しています。運営は株式会社ラビスパに管理委託を行っています。毎年数百万円の維持・修繕が行われています。平成15年度に屋根の大規模改修、ボイラーの改修等が行われ、平成23年度には震災補修を兼ねての数千万円の大規模工事を行っています。利用者数は年平均で6万人を越えますが、さらなる誘客対策、暖房費や修繕費等の削減が課題となっています。

(エ) 廃食油リサイクル施設

平成14年に建築され、築13年経過しています。建物に関しては特に直近に修繕を行う必要性はありません。精製装置の修理は平成27年度に実施し、20万円程度かかっています。また、機械保守として毎年

20万円程度はかかっています。廃油精製装置の耐用年数は一般的に約8年のため、既に耐用年数を超えていることが懸念されます。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

ラビスパ裏磐梯については、一人当たり年間維持費がとて大きなものとなっており、今後コスト削減等の検討を行っていく必要があるとおもわれます。また、施設が一箇所に集中しているため、他地域からの利便性が低いことも懸念事項として挙げられます。

(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当たり 年間維持費	老朽化率
北塩原村デイサービスセンター	2,243	5,317	36.17%
福祉施設車庫	-	5,933	14.71%
北塩原村保健センター	4,714	1,194	29.79%
北塩原村温泉健康増進施設「ラビスパ裏磐梯」	60,853	39,391	31.91%
いこいの森	2,490	5,286	68.18%
廃食油リサイクル施設	-	5,328	38.24%

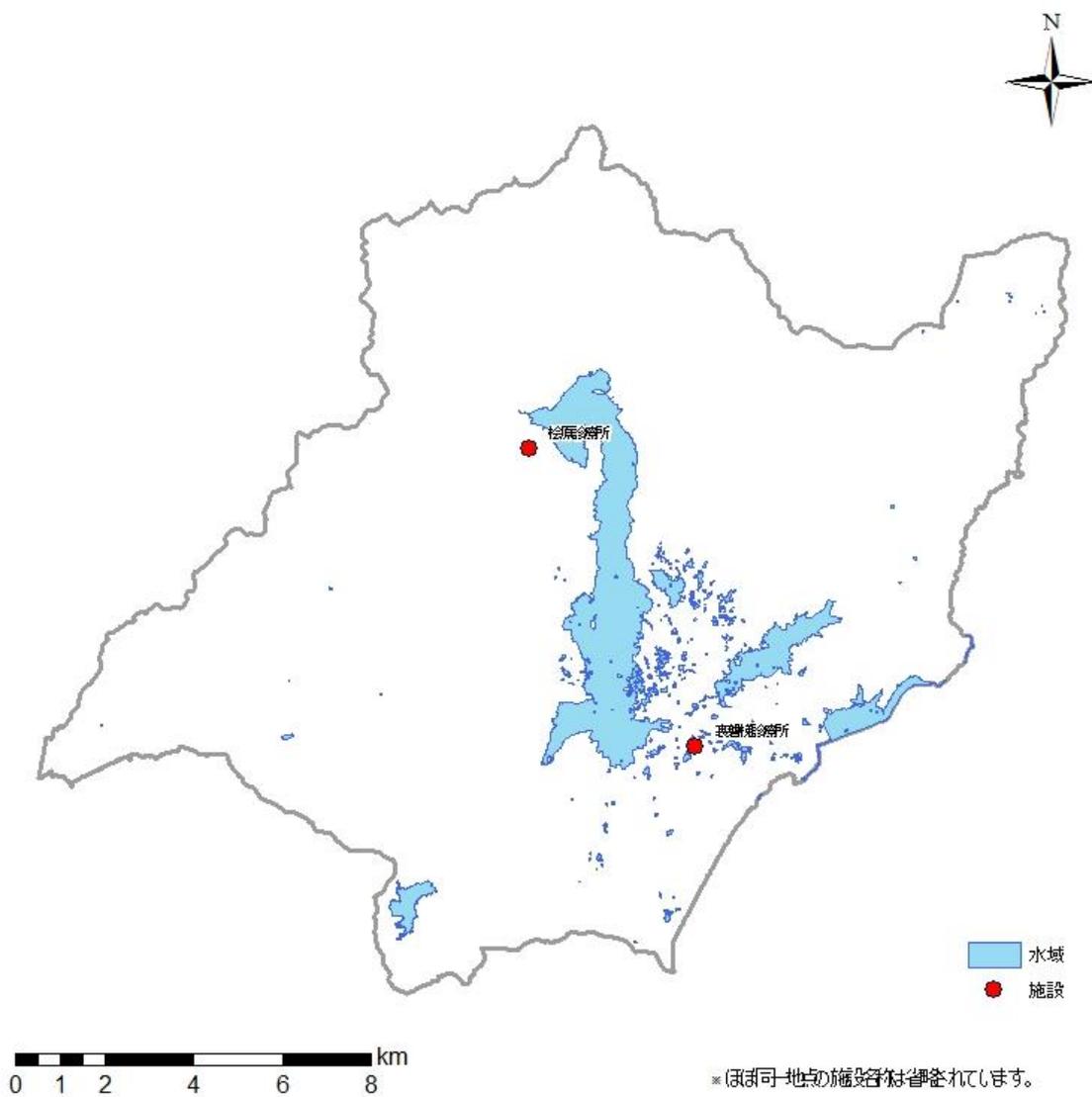
※老朽化率＝（経過年数 ÷ 耐用年数）

一人当たり年間維持費＝（（建築費用 ÷ 耐用年数）＋ 年平均支出費用） ÷ 利用者数



⑦ 医療施設

i. 施設の設置状況



ii. 施設一覧

資産名	地域	延床面積(m ²)	構造	取得年度
梶原診療所	梶原	128	W	2001
裏磐梯診療所	裏磐梯	280	W	2004

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) 桧原診療所

平成14年度建築で、築14年経過しています。地域柄害虫が多く、暖房機に入り込むなどで故障する事案が何度か発生しているため、何らかの対策を講じる必要があると思われます。診療所自体は桧原出張所施設内にあり、基本的な維持管理は桧原出張所側で行われています。毎週水曜日のための稼働となっています。

(イ) 裏磐梯診療所

平成16年度建築で、築12年経過しています。人口が多く活気がある地域なため、利用者数も多いです。桧原診療所とは違い、月曜日～土曜日の稼働となっています。また、独立した建物となっています。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

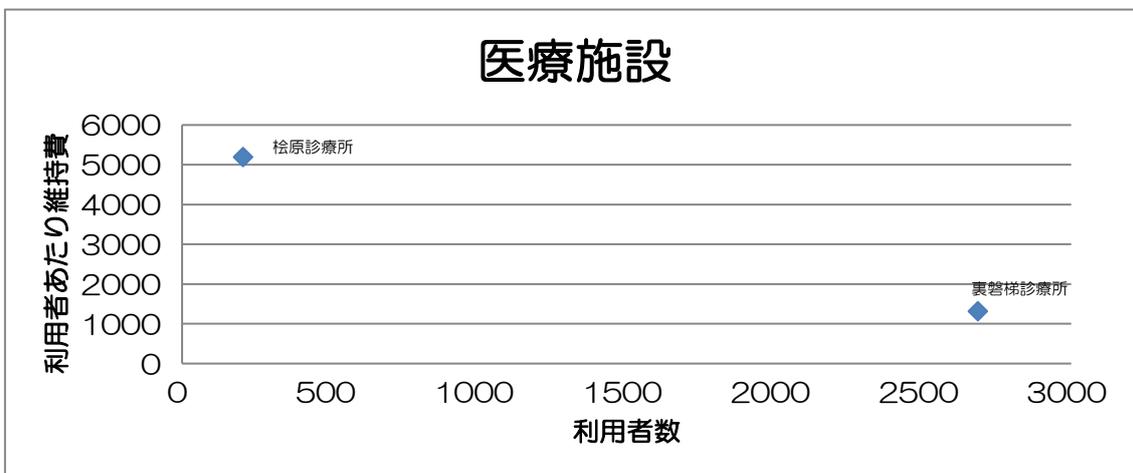
地域人口や、稼働率も影響するが、利用率に大きく差が生じています。桧原診療所に関しては桧原出張所内に設置されているため、さらなるコスト削減は難しいと思われます。

(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当り年間維持費	老朽化率
桧原診療所	207	5,192	63.64%
裏磐梯診療所	2,686	1,318	50.00%

※老朽化率 = (経過年数 ÷ 耐用年数)

一人当たり年間維持費 = ((建築費用 ÷ 耐用年数) + 年平均支出費用) ÷ 利用者数



下吉消防ポンプ庫	北山	46	W	1996
谷地消防ポンプ庫	北山	57	RC	1994
関屋樟消防ポンプ庫	北山	41	RC	1998
樟消防ポンプ庫	北山	8	W	不明
松陽台消防ポンプ庫	北山	38	RC	2003
大塩消防屯所	大塩	82	RC	2004
新田消防ポンプ庫	大塩	11	RC	不明
大久保消防ポンプ庫	大塩	43	RC	不明
上川前消防ポンプ庫	大塩	20	W	1996
下川前消防ポンプ庫	大塩	11	RC	不明
桧原消防屯所	桧原	47	RC	不明
金山消防ポンプ庫	桧原	65	W	2016
早稲沢消防ポンプ庫	桧原	80	RC	1990
曽原消防ポンプ庫	裏磐梯	53	RC	1992
孤鷹森消防ポンプ庫	裏磐梯	18	RC	1988
剣ヶ峯消防屯所	裏磐梯	72	RC	1983
蛇平消防ポンプ庫	裏磐梯	10	W	1988
秋元消防ポンプ庫	裏磐梯	10	W	1984
小野川消防ポンプ庫	裏磐梯	50	RC	1997

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) 北塩原村役場コミュニティセンター

北塩原村役場庁舎と集会施設が一体化した複合施設となっており、コミュニティセンター側は村民が利用出来るスペースとして開放され、以前は結婚式場としても利用されていたが、現在は村民による利用はなく、役場業務での打合せ・会議場として利用されています。平成25年に耐震工事を行いました。また、屋上に太陽光パネルが設置されており、防災拠点としての整備が行われています。

(イ) 除雪ステーション（北山・桧原・裏磐梯）

豪雪地帯のため、除雪ステーションの需要は高いです。冬期間のみの稼働となっていますが、北山地区は平成14年度、裏磐梯地区は平成26年度ですが、桧原地区は以前農協施設として利用されていたもので、建築年については不明となっています。

(ウ) 松原出張所

平成13年に建設され、築15年が経過しています。修繕は現時点では小規模な維持レベルのものが行われています。利用者数は施設内温泉だけで5000名~6000名となっており、年毎に増加傾向にあるが、維持管理・修繕で年間130万円前後の支出があるため、現時点で採算はとれていない状態になっています。木造のため今後長寿命化対策等を検討していく必要があると思われます。

(工) 裏磐梯観光会館（裏磐梯合同庁舎）

平成16年度に建築され、築11年が経過しています。商工観光課事務所、裏磐梯観光協会、松原漁業協同組合が入っています。木造で11年経過していますが、現時点で長寿命化対策等を行われていません。2階部分は剣ヶ峯地区の集会所として活用されている部分と、会議室として活用されている部分に分かれており、稼働率は約30%となっています。

(オ) 消防屯所、ポンプ庫

松陽台消防屯所、早稲沢、曾原、蛇平、秋元、小野川消防ポンプ庫については、消防施設としての用途の他に地区の集会所として利用されています。いずれも利用頻度は年に数回程度と少ないですが、周辺に集会施設がないため需要はあると思われます。消防施設を消防団、集会所を地区で管理しており、修繕等の対応が必要な際は村へ要望があがる形になっています。これまで平成26年度に早稲沢消防ポンプ庫の屋根修繕、小野川消防ポンプ庫の畳替え。平成27年度に下吉消防ポンプ庫の畳替え、谷地消防ポンプ庫の屋根塗装、曾原消防ポンプ庫のシャッター改修。平成28年度に剣ヶ峯消防屯所の屋根、外壁塗装、金山消防ポンプ庫の改築を予定しております。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

行政系施設のため、利用者数を地域住人数としました。(資料：「北塩原村全村下水道化事業概要」各処理区における「定住人口」による)なお、消防施設については施設の性質上、老朽化率のみを記載していません。

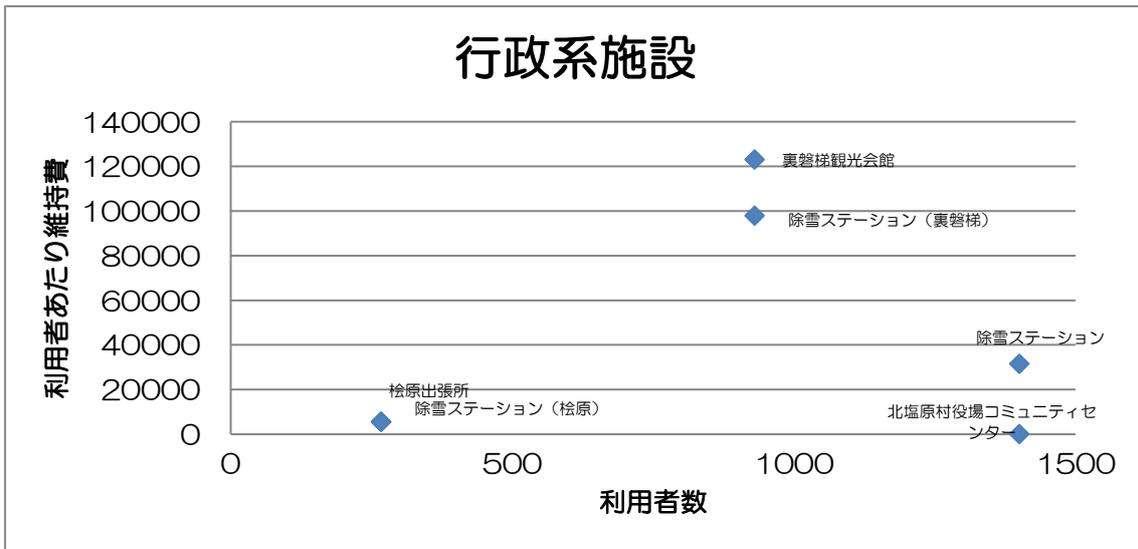
(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当たり 年間維持費	老朽化率
北塩原村役場コミュニティセンター	1,400	-	76.60%
除雪ステーション(北山)	-	31,500	38.24%
桧原出張所(桧原ふれあい温泉「湖望」)	267	5,502	68.18%
除雪ステーション(桧原)	-	5,622	26.47%
裏磐梯観光会館(裏磐梯合同庁舎)	930	123,065	50.00%
除雪ステーション(裏磐梯)	-	97,831	2.13%
北山消防屯所	-	-	31.58%
下吉消防ポンプ庫	-	-	111.76%
谷地消防ポンプ庫	-	-	55.26%
関屋樟消防ポンプ庫	-	-	44.74%
樟消防ポンプ庫	-	-	不明
松陽台消防ポンプ庫	-	-	34.21%
大塩消防屯所	-	-	28.95%
新田消防ポンプ庫	-	-	不明
大久保消防ポンプ庫	-	-	不明
上川前消防ポンプ庫	-	-	111.76%
下川前消防ポンプ庫	-	-	不明
桧原消防屯所	-	-	不明
金山消防ポンプ庫	-	-	不明
早稲沢消防ポンプ庫	-	-	65.79%
曾原消防ポンプ庫	-	-	63.16%

狐鷹森消防ポンプ庫	-	-	71.05%
剣ヶ峯消防屯所	-	-	不明
蛇平消防ポンプ庫	-	-	136.36%
秋元消防ポンプ庫	-	-	140.91%
小野川消防ポンプ庫	-	-	47.37

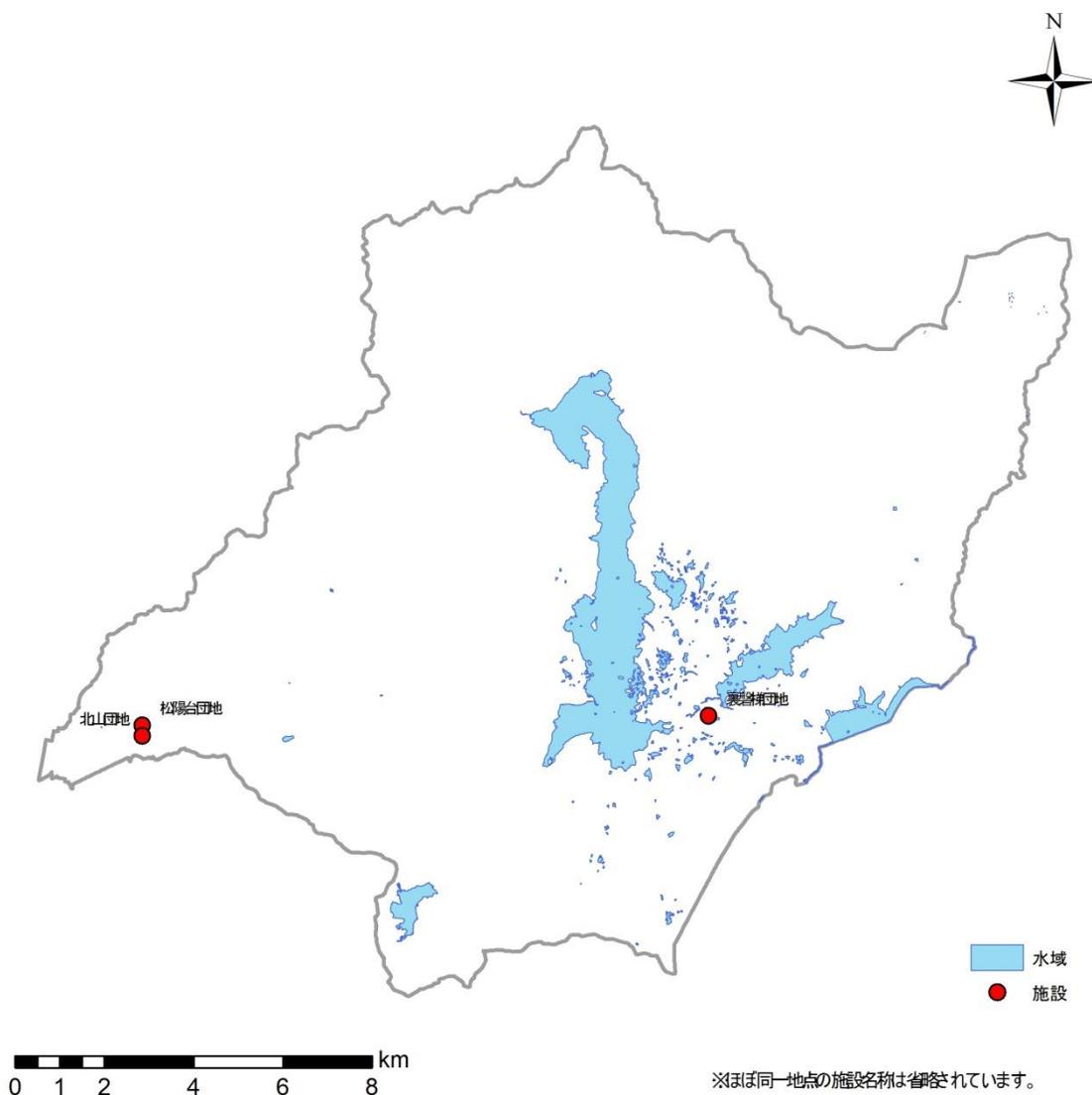
※老朽化率＝（経過年数 ÷ 耐用年数）

一人当たり年間維持費＝（（建築費用 ÷ 耐用年数）＋ 年平均支出費用） ÷ 利用者数



⑨ 公営住宅

i. 施設の設置状況



ii. 施設一覧

資産名	地域	延床面積(m ²)	構造	取得年度
裏磐梯団地	裏磐梯	1,236	RC	1990
松陽台団地	北山	1,051	W	2002
北山団地	北山	1,700	RC	2008

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) 裏磐梯団地

平成元年に建築され、築 27 年が経過しています。平成 21 年度に省エネルギー化事業として、大規模な改修を行っています。入居率は現在 91% (11/12 戸) となっている。

1 号・2 号棟は、平成 20 年に建築され、築 7 年が経過しています。現時点で、大規模な修繕等が必要なところはありません。入居率は 100% (8/8 戸) となっている。

(イ) 松陽台団地

平成 13～17 年にかけて建築され、築 11～15 年が経過しています。平成 26 年度に長寿命化計画を策定しており、現時点で大規模な修繕等が必要な所はありません。入居率は現在 100% (14/14 戸) となっています。

(ウ) 北山団地

平成 19～22 年にかけて建築され、築 6～9 年が経過しています。平成 26 年度に長寿命化計画を策定しており、現時点で大規模な修繕等が必要な所はありません。入居率は現在 100% (24/24 戸) となっています。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

いずれの施設も入居率が非常に高く、需要が高いです。耐用年数も超えておらず、解体や統合の必要性はないと思われます。

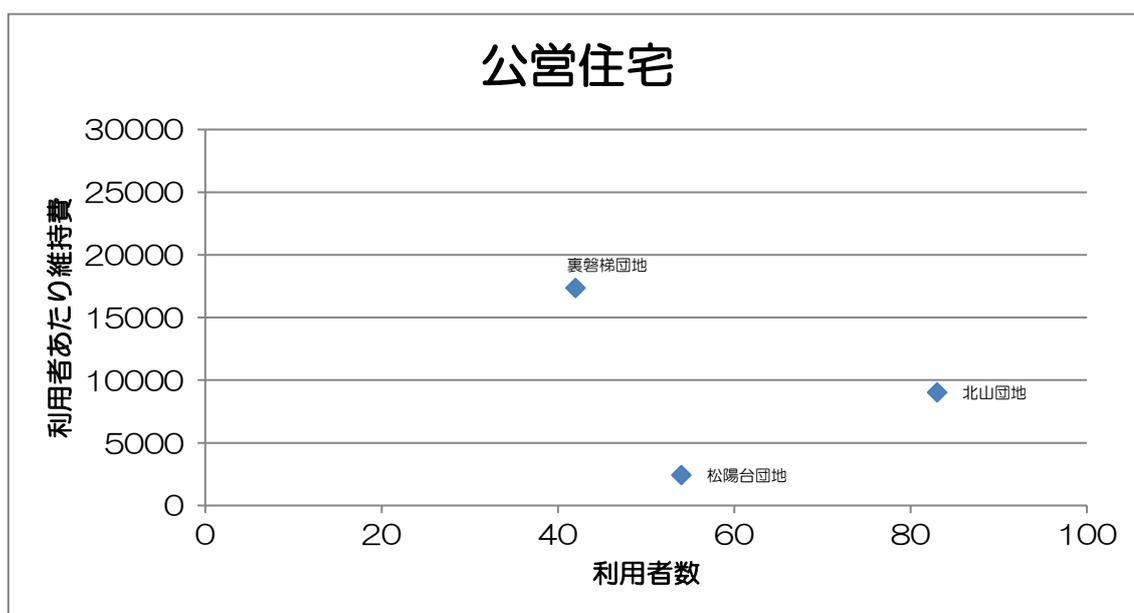
(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当り 年間維持費	老朽化率
裏磐梯団地	42	17,341	55.32%
松陽台団地	54	2,419	63.64%
北山団地	83	9,016	17.02%

※老朽化率＝（経過年数 ÷ 耐用年数）

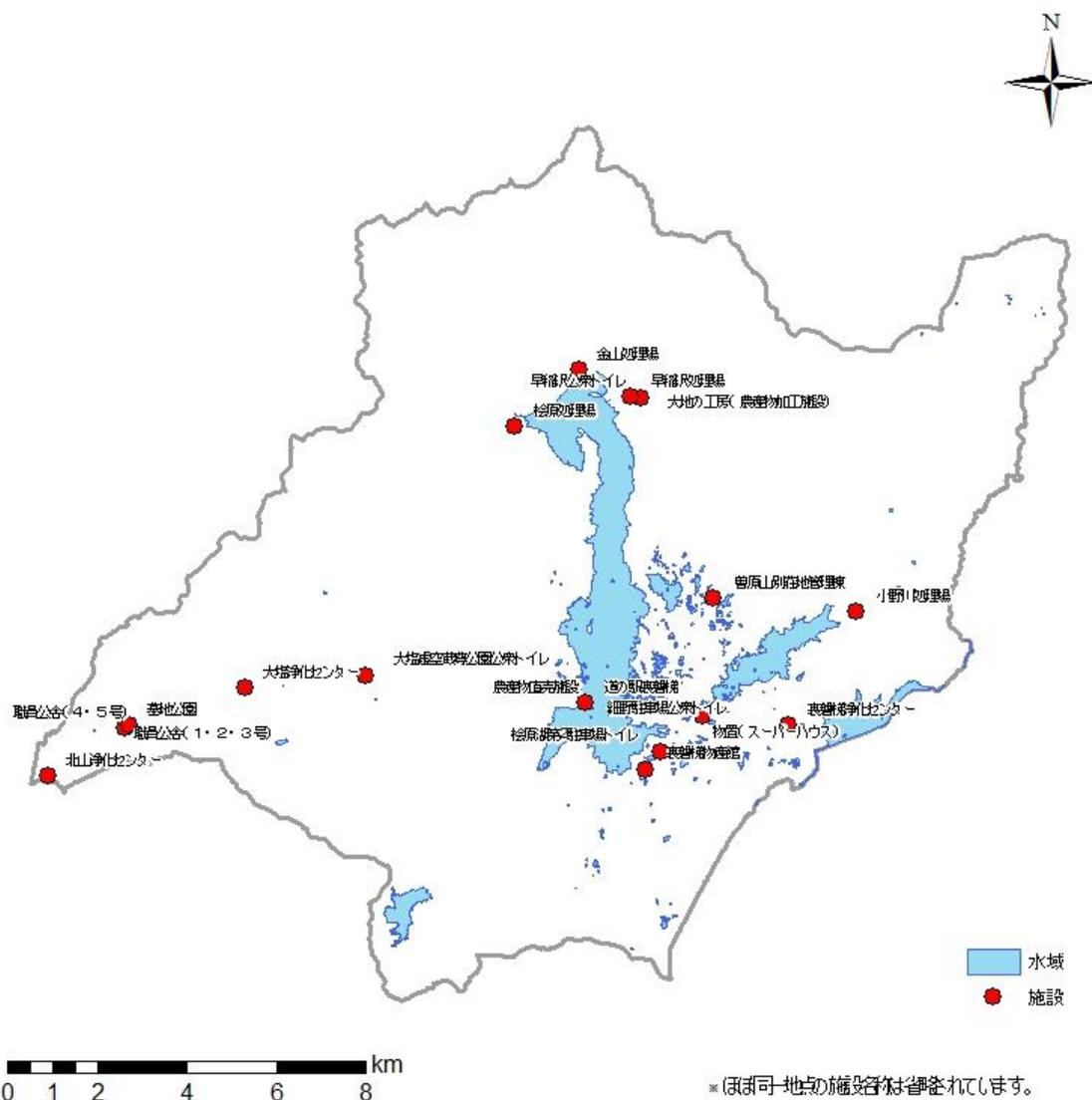
一人当たり年間維持費＝（（建築費用 ÷ 耐用年数）＋ 年平均支出費用） ÷ 利用者数

※「北塩原村人口ビジョン」より、2015年時点での総人口と総世帯数から1世帯あたり2.8人として試算



⑩ その他建築系公共施設

i. 施設の設置状況



ii. 施設一覧

資産名	地域	延床面積(m ²)	構造	取得年度
職員公舎(1・2・3号)	北山	161	W	1992
職員公舎(4・5号)	北山	1,903	W	2009
大地の工房(農産物加工施設)	松原	149	S	2000
早稲沢デコ平自然ふれあい探勝路 駐車場公衆トイレ	松原	25	W	1995
裏碓梯物産館	裏碓梯	1,104	S	2002
細野駐車場公衆トイレ	裏碓梯	55	W	1996
曾原山別荘地管理棟	裏碓梯	392	RC	2004

桧原処理場	桧原	232	RC	2000
金山処理場	桧原	168	RC	1996
早稲沢処理場	桧原	428	RC	1994
小野川処理場	裏磐梯	14	RC	1995
裏磐梯浄化センター	裏磐梯	2,765	RC	1994
北山浄化センター	北山	32	RC	1999
大塩浄化センター	大塩	38	RC	2002
桜峠管理棟	大塩	118	W	1986
道の駅裏磐梯	裏磐梯	316	W	1995
農産物直売施設	裏磐梯	199	W	2003
大塩虚空蔵公園駐車場公衆トイレ	大塩	18	W	1992
早稲沢浜公衆トイレ	桧原	19	W	1997
桧原湖第2駐車場公衆トイレ	裏磐梯	88	RC	1994
雄国沼休憩舎	大塩	138	W	2001
物置（スーパーハウス）	裏磐梯	39	S	2009
墓地公園	北山	-	-	2009

※W:木造 / RC:鉄筋コンクリート造 / SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 / S:鉄骨造

iii. 個別分析

(ア) 職員公舎（1・2・3号）・職員公舎（4・5号）

当初は家族での生活が可能な、1棟2階建ての形で建てられましたが、平成20年頃に単身者生活に合うよう、2階建ての部屋をそれぞれ分離した形に作り替えられています。

(イ) 大地の工房（農産物加工施設）

平成12年度に建築され、築15年が経過しています。地域の農産物を缶詰加工するための工場となっていますが、原発事故以降キノコ等の農産物が使用できなくなったことも影響し、年間稼働日数は60日とあまり多くは無いため、空いた期間をどのように有効活用するかの検討が必要になってくると考えます。昨年度までは地域への管理委託を行っていたが、今年度から村で管理を行っています。

(ウ) 早稲沢デコ平自然ふれあい探勝路駐車場公衆トイレ

平成7年度に建築され、築20年が経過しています。建物自体の大規模改修は行われていません。稼働しているのは5月～11月の間となっていますが、利用状況については不明となっています。また、電気・水道が無い為、今後整備していくことを検討していく必要がありますが、

近くまで電気が来ていないため、困難と思われます。

(工) 裏磐梯物産館

平成14年度に購入・改修を行い、築12年が経過しています。また、平成26年度～27年度にかけて、耐震補強工事を行っています。平成27年度までは、4月から11月までの稼働でしたが、平成28年度からは冬期間も公衆トイレの開放を予定しており、年間4万人以上の利用があります。

(才) 細野駐車場公衆トイレ

平成8年度に建築され、築20年経過しています。木造ですが長寿命化対策等は現時点で行われておらず、年間約18万円程度の維持費用がかかっています。

(力) 曾原山別荘地管理棟

平成15年度に取得し、建築年は不明です。現在は一般の方がアトリエとして使用するために無償貸出中となっておりますが、ここ数年間で10万円程度の修繕維持費がかかり、そのコストは村から支出しているため、今後の用途について検討を行う必要があると思われます。

(キ) 桧原処理場

定住人口149名に対して、計画処理人口330人規模の集落排水処理場で、平成13年度より処理が開始されています。

(ク) 金山処理場

定住人口113名に対して、計画処理人口240人規模の集落排水処理場で、平成10年度より処理が開始されています。

(ケ) 早稲沢処理場

定住人口262名に対して、計画処理人口940人規模の集落排水処理場で、平成8年度より処理が開始されています。

(コ) 小野川処理場

定住人口40名に対して、計画処理人口150人規模の簡易排水施設で、平成7年度より処理が開始されています。

(サ) 裏磐梯浄化センター

定住人口 830 名に対して、計画処理人口 26,430 人規模の集落排水処理場で、平成 9 年度より処理が開始されています。裏磐梯地区は大規模の観光地のため、観光シーズンにおける処理パンクを避けるために、規模については特に問題は無いと思われます。

(シ) 北山浄化センター

定住人口 1,400 名に対して、計画処理人口 1,400 人規模の集落排水場で、平成 11 年度より処理が開始されています。

(ス) 大塩浄化センター

定住人口 830 名に対して、計画処理人口 1,840 人規模の集落排水場で、平成 14 年度より処理が開始されています。

(セ) 桜峠管理棟

昭和 61 年度に建築され、築 29 年経過しています。一階がコンクリート造で、二階が木造となっています。現在は 4 月～11 月の稼働で、植樹された桜の保全管理体制の充実を図るために利用されています。年平均で数万円レベルの修繕費がかかっています。耐用年数を超えていることから、付近にある他の施設の一角を使用して管理棟とすることも検討していくべきと考えます。

(ソ) 道の駅裏磐梯

平成 9 年度に建築され、築 18 年が経過しています。平成 23 年度には屋根塗装を全面的に実施しており、修繕費は年平均約 100 万円程度かかっています。年間 340 日程度稼働しており、年間 50 万人程度利用する施設となっているが、耐震化診断等を行っていない上、木造のため老朽化が見受けられる為、今後改修等について検討する必要があります。

(タ) 農産物直売施設

平成 15 年度に建築され、築 13 年が経過しています。特殊な合併処理浄化槽を利用しているため、修繕費は年平均 100 万円程かかっています。併設されている道の駅と同様、冬期間閉鎖はしているが、利用者数は多いです。現在指定管理を行っています。

(チ)大塩虚空蔵公園駐車場公衆トイレ

平成4年度に建築され、築23年が経過しています。また、平成16年に水洗化工事が行われているが、建物自体の大規模修繕は行われていません。稼働しているのは4月～11月の間となっていますが、利用状況については不明となっています。

(ツ)早稲沢浜公衆トイレ

平成9年度に建築され、築18年が経過しています。建物自体の大規模改修は行われていません。稼働しているのは4月～11月の間となっているが、利用状況については不明となっています。

(テ)桧原湖第2駐車場公衆トイレ

平成6年度に建築され、築21年経過しています。鉄筋コンクリート造で、4月～11月の稼働となっており、年間約7万円前後の維持費用がかかっています。

(ト)雄国沼休憩舎

平成13年度に建築され、築15年が経過しています。長寿命化対策等は行われていません。この施設は村として維持管理はしておりませんが、喜多方市などと組織する「雄国沼施設等管理運営協議会」により、トイレ利用者からの協力金やオーバーユース対策で運行しているシャトルバス運行負担金などで運営しております。また手洗い水等は雨水を利用している為、コスト削減も積極的に取り組まれています。

(ナ)物置（スーパーハウス）

平成21年度に建築され、築7年が経過しています。2/3を裏磐梯小学校の物置として、1/3を裏磐梯観光協会の物置として使用しています。

(二)墓地公園

平成21年度に整備され、築7年が経過しています。周辺に類似施設がなく、現在108区画中69区画が利用されております。

iv. 総合分析

(ア) データ分析

観光施設や、処理場・公衆トイレなどのインフラ設備のため、詳細な分析は行えませんが、老朽化等から今後の維持管理を検討すべき施設があります。

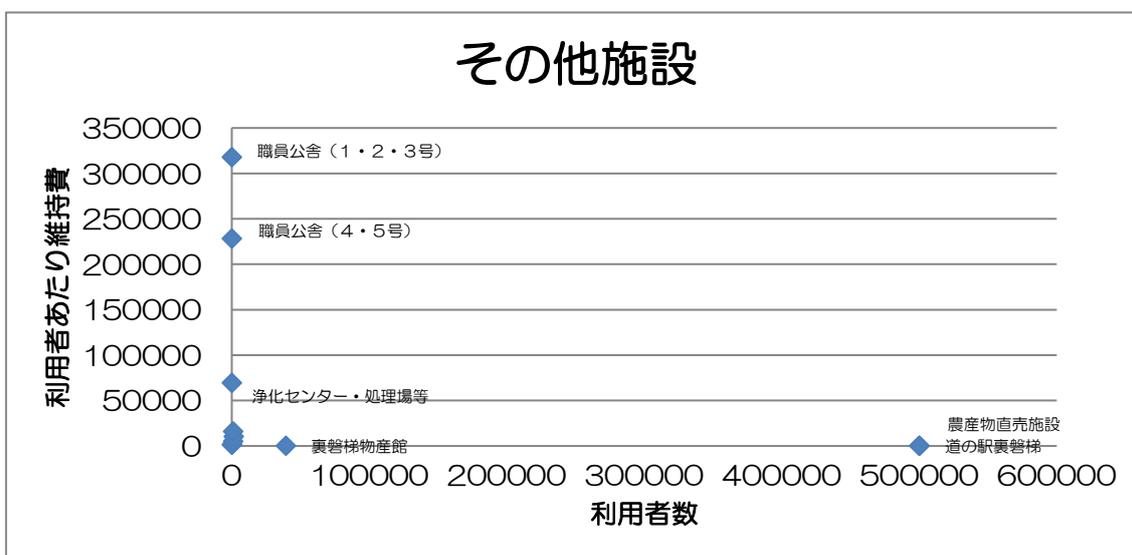
(イ) 利用者数・維持費・老朽化率

施設名	利用者数	一人当り 年間維持費	老朽化率
職員公舎（１・２・３号）	約 9	317,788	68.18%
職員公舎（４・５号）	約 6	228,266	27.27%
大地の工房（農産物加工施設）	不明	不明 （年平均 170 万程度）	44.12%
早稲沢デコ平自然ふれあい探勝路駐車場公衆トイレ	不明	不明 （年平均 3 万程度）	90.91%
裏磐梯物産館	39,255	103	38.24%
細野駐車場公衆トイレ	不明	不明 （年平均 18 万程度）	86.36%
曾原山別荘地管理棟	0	不明	25.53%
桧原処理場	149	不明	29.79%
金山処理場	113	1,215	40.43%
早稲沢処理場	262	1,816	44.68%
小野川処理場	40	69,216	55.26%
裏磐梯浄化センター	930	5,204	44.68%
北山浄化センター	1,400	10,302	44.74%
大塩浄化センター	830	16,112	39.36%
桜峠管理棟	5	不明 （年平均 1000 万程度）	131.82%
道の駅裏磐梯	約 500,000	9	90.91%
農産物直売施設	約 500,000	6	54.55%
大塩虚空蔵公園駐車場公衆トイレ	不明	不明 （年平均 20 万程度）	104.55%
早稲沢浜公衆トイレ	不明	不明 （年平均 5 万程度）	81.82%

桧原湖第2 駐車場公衆トイレ	不明	不明	44.68%
雄国沼休憩舎	不明	不明 (年平均 50 万程度)	63.64%
物置 (スーパーハウス)	不明	不明	19.35%
墓地公園	71 区画	-	-

※老朽化率 = (経過年数 ÷ 耐用年数)

一人当たり年間維持費 = ((建築費用 ÷ 耐用年数) + 年平均支出費用) ÷ 利用者数



II. 土木系公共施設の管理に関する基本的な方針

① 道路

平成 25 年度に約 76km の路線を対象に点検を行っており、ひび割れ率が約 15km (19%)、IRI (舗装の平坦性) が 10km (14%) となっています。主に 1 級路線、2 級路線の交通量が多いこともあり損傷が進んでいます。点検結果を踏まえ、平成 26 年度より蛇平・小野川線の修繕工事を行っており、終わり次第優先順位を策定の上、他の路線の修繕工事を行っていきます。道路付属物についてはガードレールの損傷等が進んでおり、今後修繕等についての計画を検討していく必要があります。また、日常的なパトロールも行っており、不具合箇所の損傷度に応じ早急な修繕工事を行い、安全性を確保するとともに、損傷の拡大を防止します。また、今後の各年度の計画補修費を下表のグラフに示す。

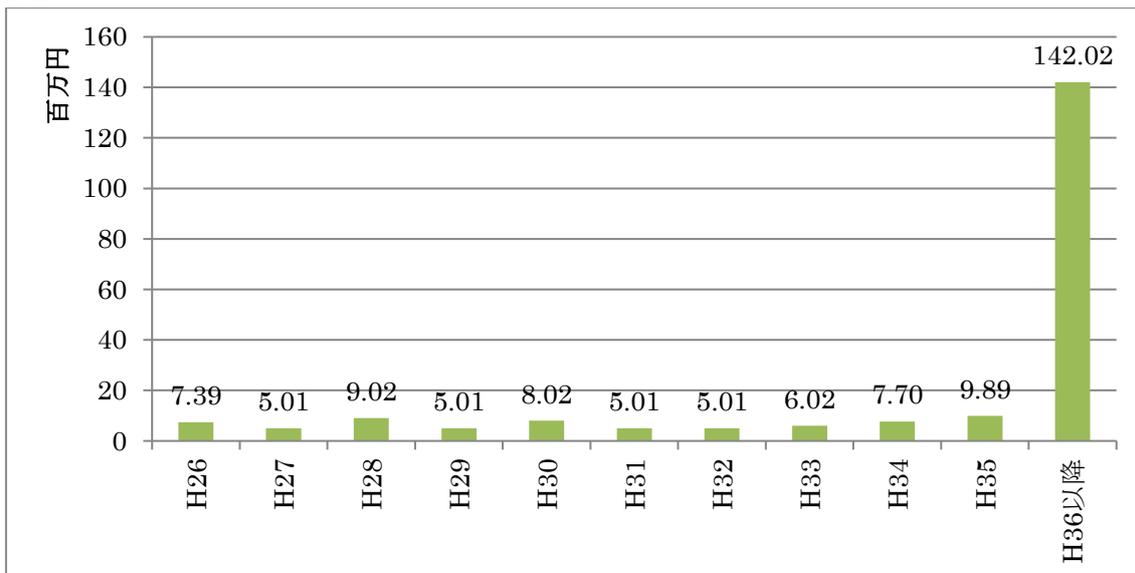


図 23 村道計画補修費の推移

② 橋梁

平成 23 年度に長寿命化計画を策定しています。長寿命化計画を踏まえ、平成 24 年度に川向橋と川前橋の修繕工事を行っていますが、川向橋については平成 29 年度に再度一部の修繕工事を予定しています。平成 28 年度に 20 橋の点検を行い、平成 29 年度に 28 橋の点検を予定しており、点検結果を踏まえ優先順位を策定の上、修繕を実施していきます。今後は長寿命化計画に基づき、補修等の日常の維持管理を徹底するとともに、5 年に 1 回を基本としての定期的な点検を行っていきます。

③ 上水道

築年数が古い施設が多く、塩素滅菌室があるのみで、基本的に機械などの設備がない施設がほとんどです。なお、桧原施設については平成 27 年度に建替えを行っています。長寿命化対策として、平成 27 年度から耐震化事業を実施しており、平成 32 年度まで実施予定です。設置後 40 年を経過した老朽管及び老朽施設が残っていますが、今後事業計画に基づいて順次更新予定としていきます。また、今後の各年度の投資・財政計画を下表のグラフに示す。

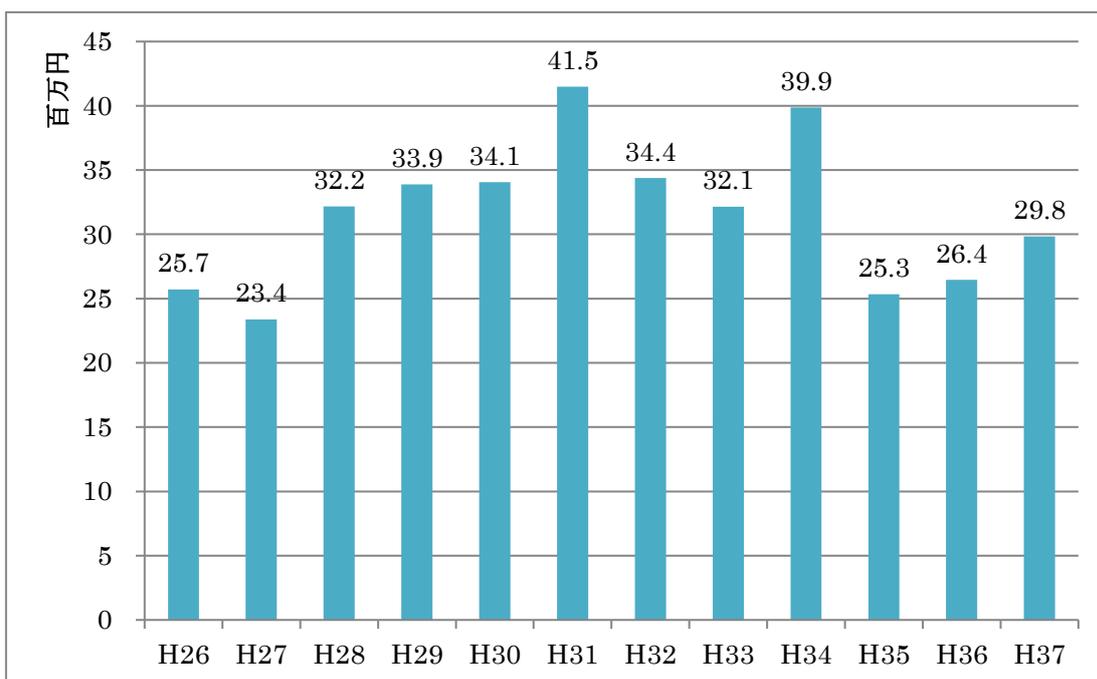


図 24 上水道投資・財政計画の推移

④ 下水道

i. 特定環境保全下水道

普及率 97.54%、接続率 83.27%となっています。裏磐梯浄化センターについては観光者数を見込んで大規模な施設となっていますが、近年観光者数の減少により、下水道使用料金の徴収も減少しております。平成 25 年度に長寿命化計画を策定し、平成 26 年度より裏磐梯浄化センターの改修工事を行っています。北山浄化センターと大塩浄化センターについては比較的新しい施設のため、目立った劣化等はありませんが、今後長寿命化計画に基づき順次更新予定としていきます。また、今後の各年度の投資・財政計画を下表のグラフに示す。

ii. 農業集落排水事業

普及率 96.53%、接続率 92.48%となっています。人口減少により、下水道使用料金の徴収も減少しています。平成 25 年度に施設の機能強化事業を実施し、平成 28 年度より早稲沢処理場の施設、設備改修工事を行っています。早稲沢処理場の改修工事が終わり次第、金山処理場の改修工事を計画しています。平成 36 年度を目途に完了予定とし、今後事業計画に基づき順次更新予定としていきます。また、今後の各年度の投資・財政計画を下表のグラフに示す。

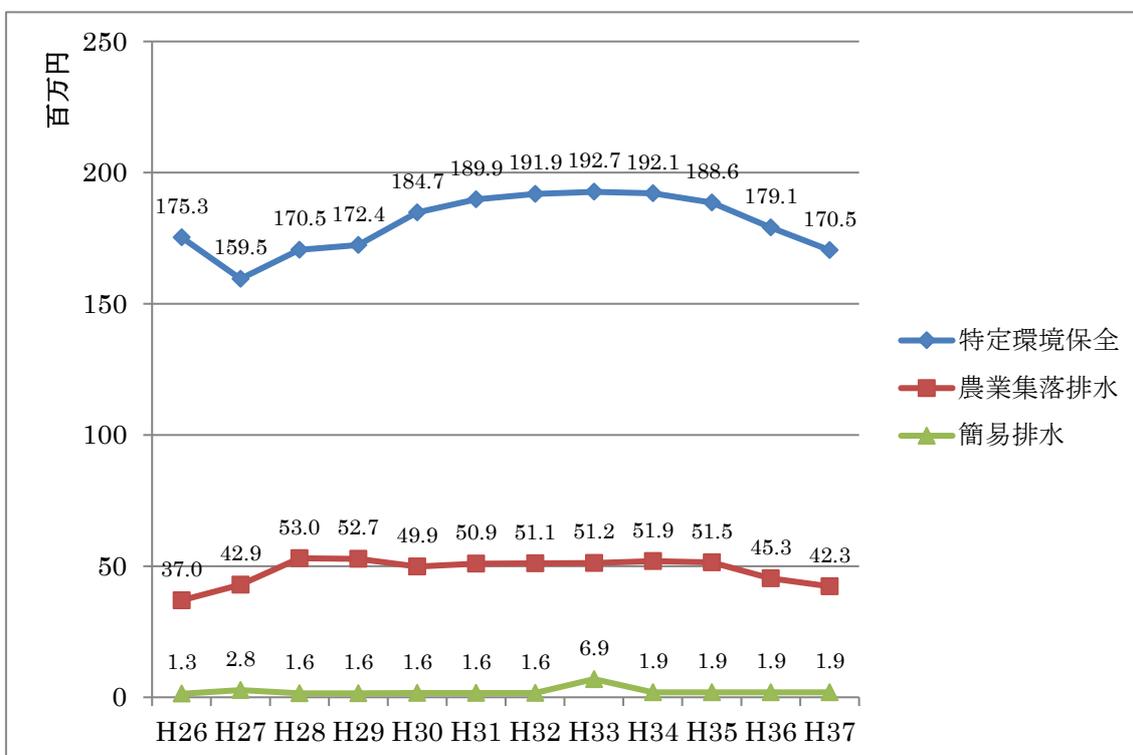


図 25 下水道投資・財政計画の推移

iii. 修繕の優先順位

事業を実施する順番を決定するにあたり、設備の重要度を考慮する。それぞれのグループの重要性について以下に示す。

処理場の役割は、下水の排除および滅菌に関する機能を果たすことが大前提であることから、揚水および消毒に関する設備を最も重要度が高いものとする。水処理施設においては、二次処理に比べて一次処理が重要として考え、上流から下流にかけて、重要度「高」→「低」とする。汚泥処理設備は、水処理設備に比べて重要度が低いものとする。この考え方をまとめたものを以下に示す。

重要度の考え方

重要度	優先順位	処理内容	土木建築	建築設備	機械設備	電気設備
高い   低い	1	<ul style="list-style-type: none"> 下水の排除 滅菌放流 	<ul style="list-style-type: none"> 沈砂池・ポンプ棟 導水渠 塩素混和池 放流渠・吐口 管理棟 電機棟 独立管廊(必要施設) オイルタンク等の主要な付属施設 	<ul style="list-style-type: none"> 防災設備 	<ul style="list-style-type: none"> 主ポンプ設備 消毒設備 主要な配管 	<ul style="list-style-type: none"> 受変電設備 監視操作設備 自家発電設備 特殊電源設備 計装設備 消毒設備 主要な配線・配管
	2	<ul style="list-style-type: none"> 一次処理 	<ul style="list-style-type: none"> 最初沈殿池 		<ul style="list-style-type: none"> 沈砂池設備 最初沈殿池設備 	<ul style="list-style-type: none"> 最初沈殿池設備
	3	<ul style="list-style-type: none"> 二次処理 	<ul style="list-style-type: none"> 反応タンク 最終沈殿池 機械棟 汚泥処理棟(操作室がある場合) 		<ul style="list-style-type: none"> 送風機設備 反応タンク設備 最終沈殿池設備 	<ul style="list-style-type: none"> 反応タンク設備 最終沈殿池設備
	4	<ul style="list-style-type: none"> 高度処理 汚泥処理 	<ul style="list-style-type: none"> 汚泥濃縮タンク 汚泥消化タンク 汚泥処理棟 汚泥焼却炉 	<ul style="list-style-type: none"> 通信設備 照明設備 給水設備 空調設備 	<ul style="list-style-type: none"> 高度処理設備 用水設備 汚泥濃縮設備 汚泥消化設備 汚泥脱水設備 汚泥焼却設備 脱臭設備 	<ul style="list-style-type: none"> 高度処理設備 用水設備 汚泥濃縮設備 汚泥消化設備 汚泥脱水設備 汚泥焼却設備

この重要度の考え方から、各設備グループの優先順位を以下のように設定する。

各設備グループの優先順位

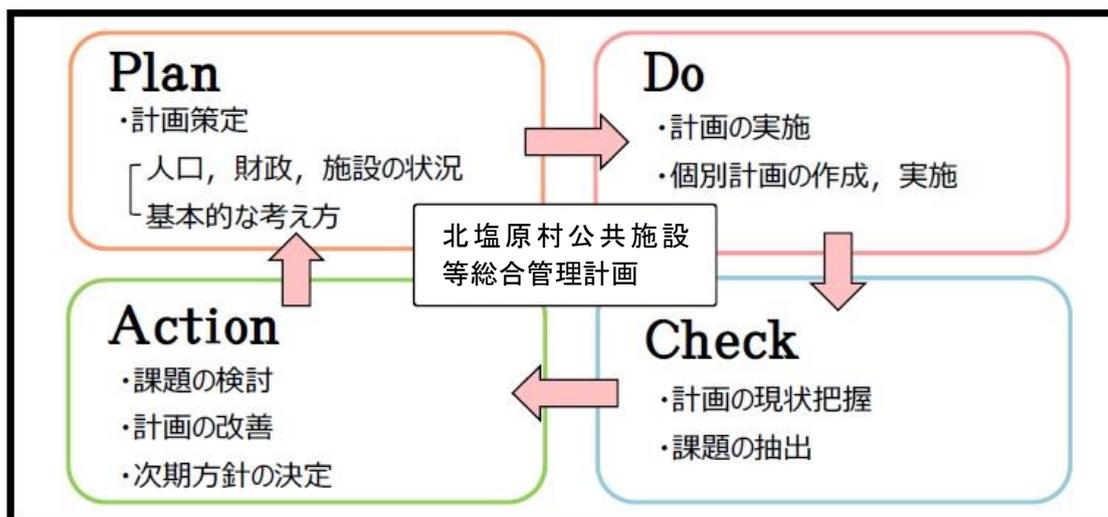
重要度	優先順位	処理内容	設備グループ
高い  低い	1	<ul style="list-style-type: none"> ・下水の排除 ・滅菌放流 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋元MP設備 ・裏磐梯STP受変電設備 ・裏磐梯STP制御電源および計装用電源設備 ・裏磐梯STP監視制御設備 ・裏磐梯処理区マンホールポンプ場 土木施設・プラント機械・プラント電気設備
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・一次処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋元流入井設備 ・裏磐梯STP水処理電気設備
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・二次処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏磐梯STP最終沈殿池設備
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・高度処理 ・汚泥処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏磐梯STP用水設備 ・裏磐梯STP汚泥脱水設備 ・裏磐梯STP付帯設備(ゲート・弁類) ・裏磐梯STP汚泥処理電気設備 ・大塩STP機械設備 ・大塩STP電気設備 ・北山STP機械設備 ・北山STP電気設備 ・裏磐梯浄化センター・北山浄化センター 土木施設・建築施設・建築電機設備

第六章 計画の推進について

① PDCAサイクル

本計画は、PDCAサイクルにより、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を継続的に実施することで、効率的、効果的に推進します。

また、各個別計画も同様に、PDCAサイクルを活用し推進します。



② 村民および議会への情報提供等

本計画は、「必要な施設機能の維持に配慮しながら保有総量の縮減を図る」、「計画的に施設の点検や修繕を実施し、長寿命化を図る」、「施設の耐震化や安全性の確保を図る」等の基本方針に基づき取り組みを進めますが、公共施設の廃止や統廃合、複合化等の実施にあたっては、施設利用者をはじめとする村民との合意形成に努めるとともに、必要に応じてパブリックコメント手続きを実施し、さらには、適宜、村民や議会と情報を共有しながら、取り組むこととします。

③ 次期計画について

計画期間の終了時には、人口や財政の状況等を踏まえ、本計画を検証し、次期計画を策定するものとします。

【資料編】

1 施設マネジメントに関する取り組み状況

【計画の策定】

平成 25 年度	・舗装維持管理計画【R5 更新予定】
平成 26 年度	・公営住宅長寿命化計画【R5 更新予定】
平成 28 年度	・公共施設等総合管理計画【R3 一部改訂予定】 ・簡易水道事業-経営戦略 ・特環下水事業-経営戦略 ・農業集落排水事業-経営戦略 ・簡易排水事業-経営戦略
平成 29 年度	・特環下水-ストックマネジメント計画（随時更新）【R5 更新予定】
令和元年度	・公共施設個別施設 ・橋梁長寿命化修繕計画【R4 更新予定】
令和 2 年度	・農業集落排水事業-最適整備構想

【取り組み事例】（平成 28 年度以降）

平成 28 年度	・金山消防屯所 【更新（規模縮小）】 ・裏磐梯中学校教職員住宅 【解体】
平成 29 年度	・裏磐梯小学校 【長寿命化】
平成 30 年度	・裏磐梯中学校 【長寿命化】
令和 2 年度	・第一中学校 【長寿命化】

2 公共施設保有総量（建物）及び有形固定資産減価償却率の推移

年度	公共施設 保有総量	有形固定資産 減価償却率
平成 28 年度	53,839 m ²	64.0 %
平成 29 年度	54,197 m ²	65.1 %
平成 30 年度	54,296 m ²	66.1 %
令和元年度	54,296 m ²	67.8 %

※有形固定資産減価償却率

→村が保有する施設等が耐用年数に対して資産取得からどの程度経過しているかを把握し、資産の経年の程度を把握することができます。（割合が大きいほど老朽化が進んでいると判断されます。）

北塩原村公共施設等総合管理計画

発行 平成29年3月（令和4年3月一部改訂）

発行者 北塩原村

〒966-0485

福島県耶麻郡北塩原村

大字北山字姥ヶ作 3151 番地

編集 北塩原村総務企画課

電話 0241-23-3111

<http://www.vill.kitashiobara.fukushima.jp/>

